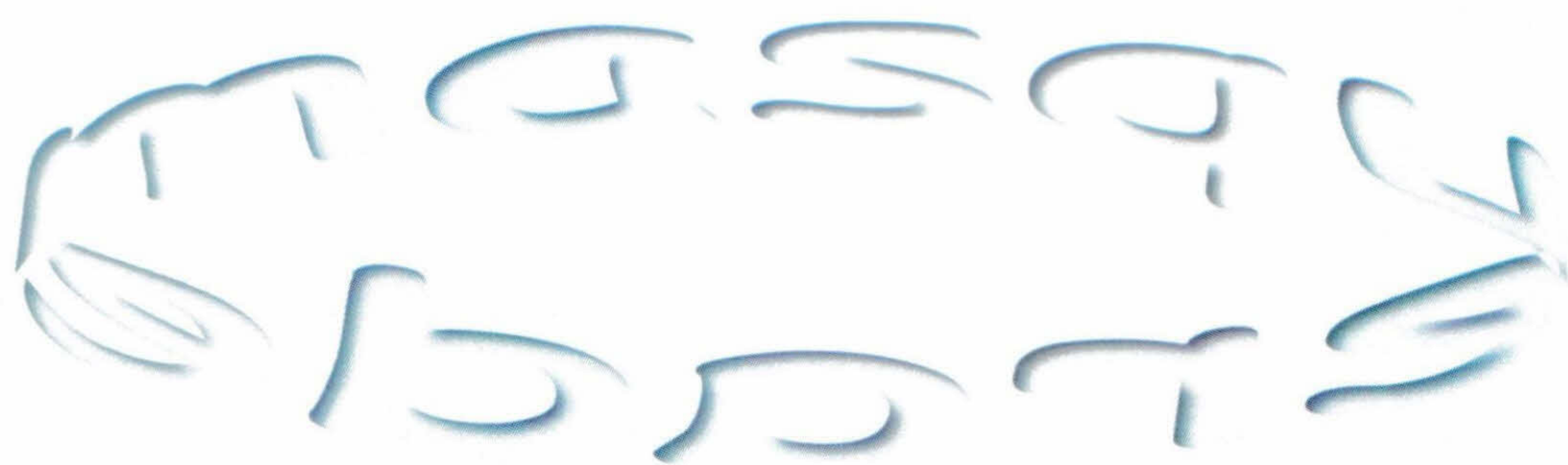




part eight

number four edited by dr. masato mugitani

限定100部の内の11/100

“The Gift” という手品

麦谷眞里

(まえがき) “The Gift” というのは、アンジェロ・カルボーンという人が考案・開発して販売した手品用具の名前です(写真105)。商品化されています。

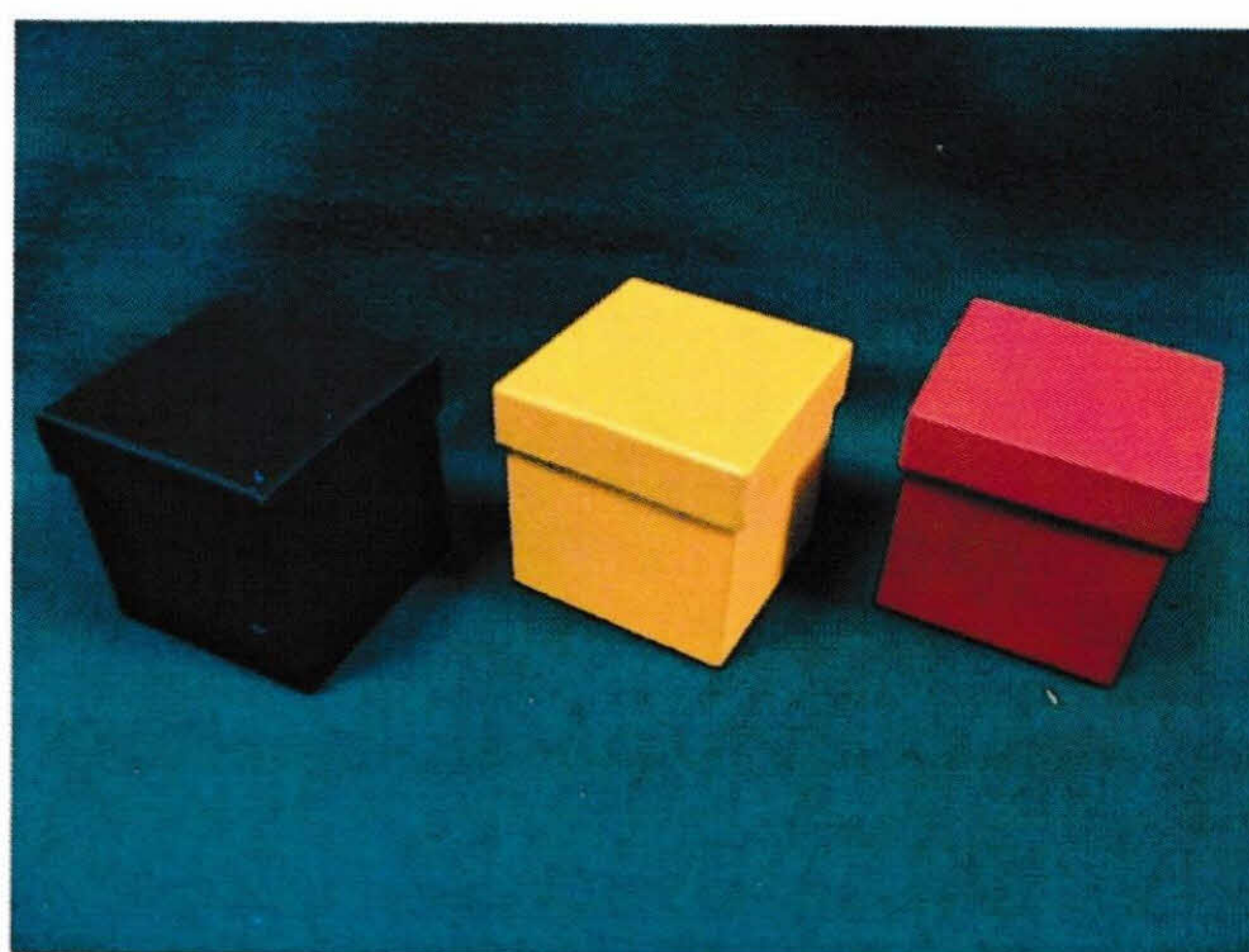


写真105

写真のように、黒い箱のバージョン、金色の箱のバージョン、そして最近になって赤い箱のバージョンが売り出されました。箱の色によって若干値段が違いますが、手品としての現象はまったく同じです。参考までに、価格を紹介しておきますと、黒の箱が74.95ドル(約8000円)、金色と

赤の箱はそれぞれ99.95ドル(約1万1000円)です。演技に必要なものはデッキも含めてすべて付いて来ます。

現象は、客がデッキからテーブル上に1枚ずつカードを表向きに出して行って、好きなところで止めます。そのカードの名前が、予め箱の中に入れてあった紙に書いてある、という予言現象です。箱の中には、予言の紙以外は何もありません。

この手品は、現在、市場でまだ販売中ですので、タネの秘密を何もかも書くわけにはいきませんが、以下の私の解説で手品的センスのいい方にはほとんど内容がわかると思います。しかし、ディテールについては伏せてありますので、「妖術の開示」率は37%ほどです。

実際に演技の宣伝動画を見ると、なぜ、最初に箱の中に予言の紙が入っているのを見せないのか?とか、デッキを客に切らせないのか?とか、そもそも、どうして予言の紙をテーブルに置いておかないで、不自然な大きな箱に入っているのか?などたくさんの疑問が湧きます。宣伝動画の演者(アンジェロ・カルボーン本人ではありません!)の見せ方が、いまひとつ感じよくないと思うのは私だけでしょうか?手品の見せ方がエレガントじゃないのです。むしろ粗野な印象がします。たとえば、客にカードの選び方を説明するときに、右手はずっとテーブルより下方に隠したまま、左手だけで指示するのです。そして、客のカードが決まってから、突然右手が導入されます。これは右手の親指にサムチップが付いているからなのですが、他の指でカバーしてればいいことで、何も右手全体を無理に隠していることはないのです。実際、アンジェロ・カルボーンが解説するときには、右手の他の指で親指に被せたサムチップをカバーするように説明しているのだからなおさらです。これは商品の宣伝動画なのですから、どうしてこんな感じの悪い人を起用したのか不思議に思いました。

それでは、“The Gift”の具体的考察に入ります。

1. 考察

さて、客のカードは、デッキを客自身が表向きに配って行って好きなところで配るのを止めて選ぶ形式なので、アル・コーラン・デッキのようにになっていることはすぐに想像が付きまします(写真106)。

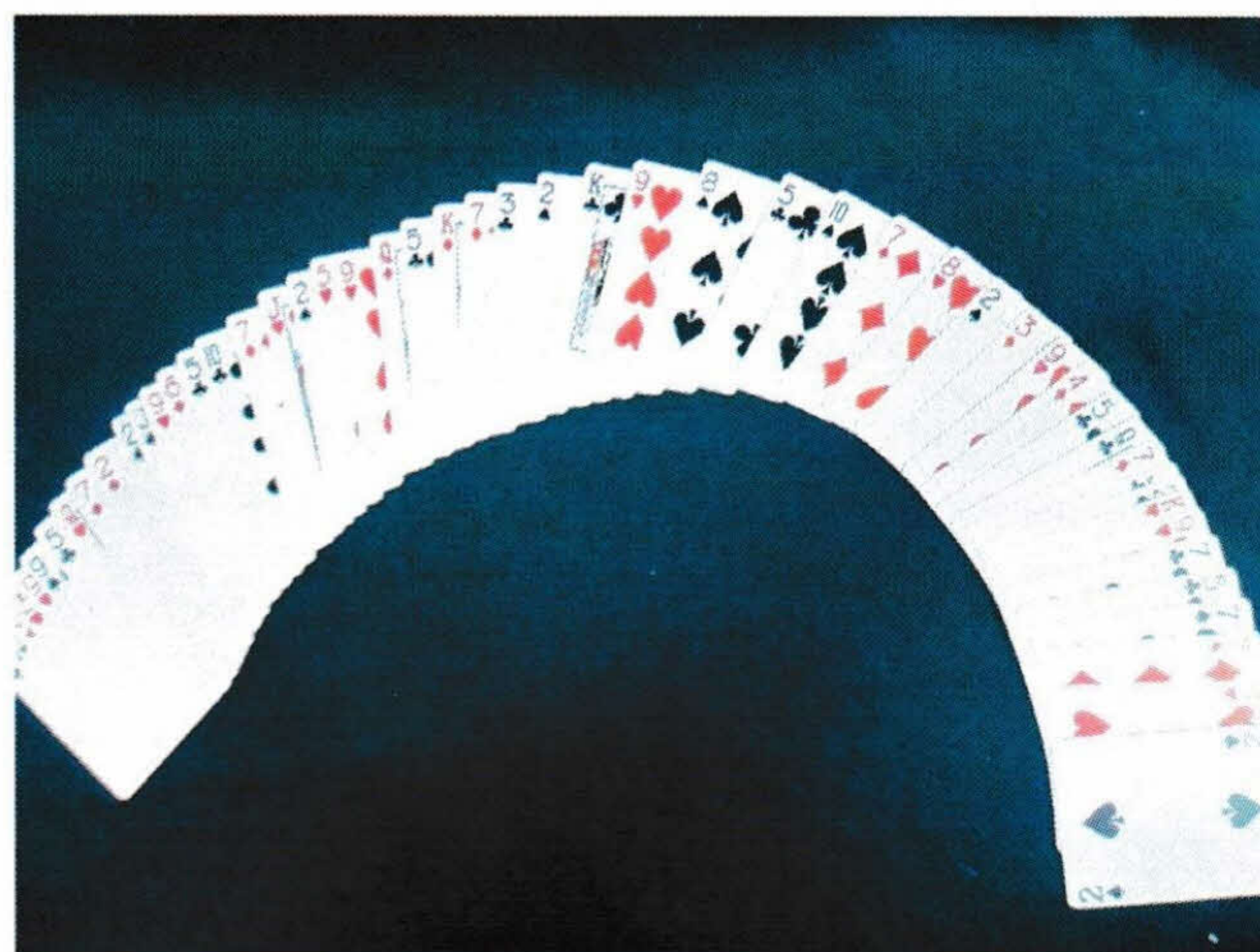


写真106

「表向きで」と「好きなところで」というのが客にとっての魅力です。客はその魅力に負けて、4種類のカード(♥9、♣5、◇7、♠2)が1枚別のカードをそれぞれ間に挟んで循環(写真106)になっていることに気が付きません。さすが、アル・コーランは天才です、と言いたところですが、このデッキに限って言えば、オードリー・ウォルシュの原案です。そうすると、この箱は4種類のカードの選択肢に対応していることになります。でも、箱の中の予言の紙はひとつしかありませんでした。多くの人は私も含めて、ここでギブアップし、結局、「The Gift」を買うことになります。

箱には凝った仕掛けが備わっています。器用な人なら自分で作れるかもしれませんが、私の場合は、これほど凝った作りになっていると買ったほうが早いです。箱には4つの側面がありますから、4種類の予言が仕掛けられていて、観客の選んだカード(4枚のフォース・カードのうちの1枚)の予言の紙だけを箱の中に落とす仕組みになっています(写真107)。

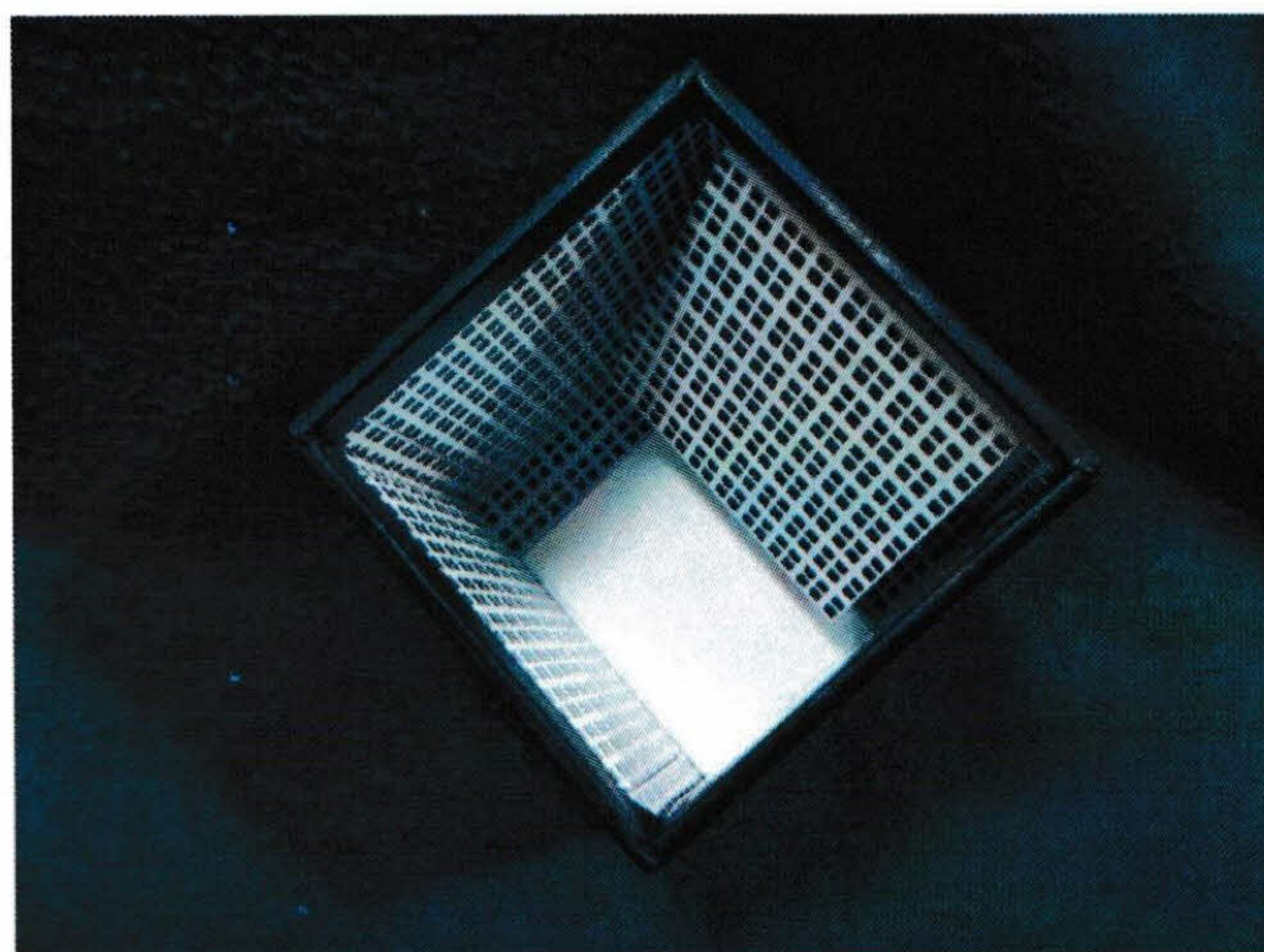


写真107

ハンドリングも含めてよくできています。ただ、どうしても、こんな小さな紙の予言を入れておくのに、こんな大きな箱がいるのか？という疑問は残ります。その不自然さを補うために、マジシャンは、最初に箱の中からデッキを取り出すのです。予言の紙は、箱の内側の側面に収納されていて、それを箱の外側から操作して側面のフラップを開けます。これだけ書いても種明かしには程遠いです。なぜなら、どのようにして中の4面のフラップのうちの一つだけを開けて予言の紙を箱の中に落とし、また完全に元通りにフラップを閉めるのか、メカニズムがわからないからです。あれこれ考えても自分で作るのは容易ではありませんから購入したほうが得策です。

手品としては、そこそこ面白いですし、よく考えてあるとは思いますが、金色や赤い箱は1万円以上しますから、現象だけ見ると1万円出す手品ではないと思われるかもしれません。しかもセルフ・ワーキングではありません。実に、けっこうマジシャン側の作業も多いのです。

2. 解説のビデオ

購入すると、最近の傾向ですが、説明書もDVDも付いてなくて、パッケージにインターネットのアクセス・サイトが書いてあって、同時にパスワードが書いてあります。アクセスすると、やり方を教えるビデオは2つあって、その順番も指示されています。最近の手品用具は、この方式が多くて、

かつてのように、印刷された説明書を読みながらゆっくり読み進んで行く日本人マジシャンには不利かもしれません。

さて、最初に見ろと書いてあるビデオに行きます。これがアンジェロ・カルボーン本人です。見るからに神経質そうな男です。最初に見るべきだとされているビデオで、箱のメカニズムの説明とフラップをはじめとするタネの調整の仕方を延々と述べます。どんなことを言うかという、フラップの端にちょっとでも糊が残っていると、それでフラップが箱の内面の縁にくっついて開かなくなるアクシデントを防ぐために、糊をきちんと取るのだとか、ティッシュ・ペーパーで拭けとか、フラップを少し折り曲げておくとか、そんな説明を最初に、これでもか、これでもか、と説明します。フラップを箱の外から開けるのにサムチップに仕込んだ磁石を使うのですが、その磁石の大きさとか位置とか、サムチップの大きさとか、そういうこまごましたことも延々と説明します(写真108)。

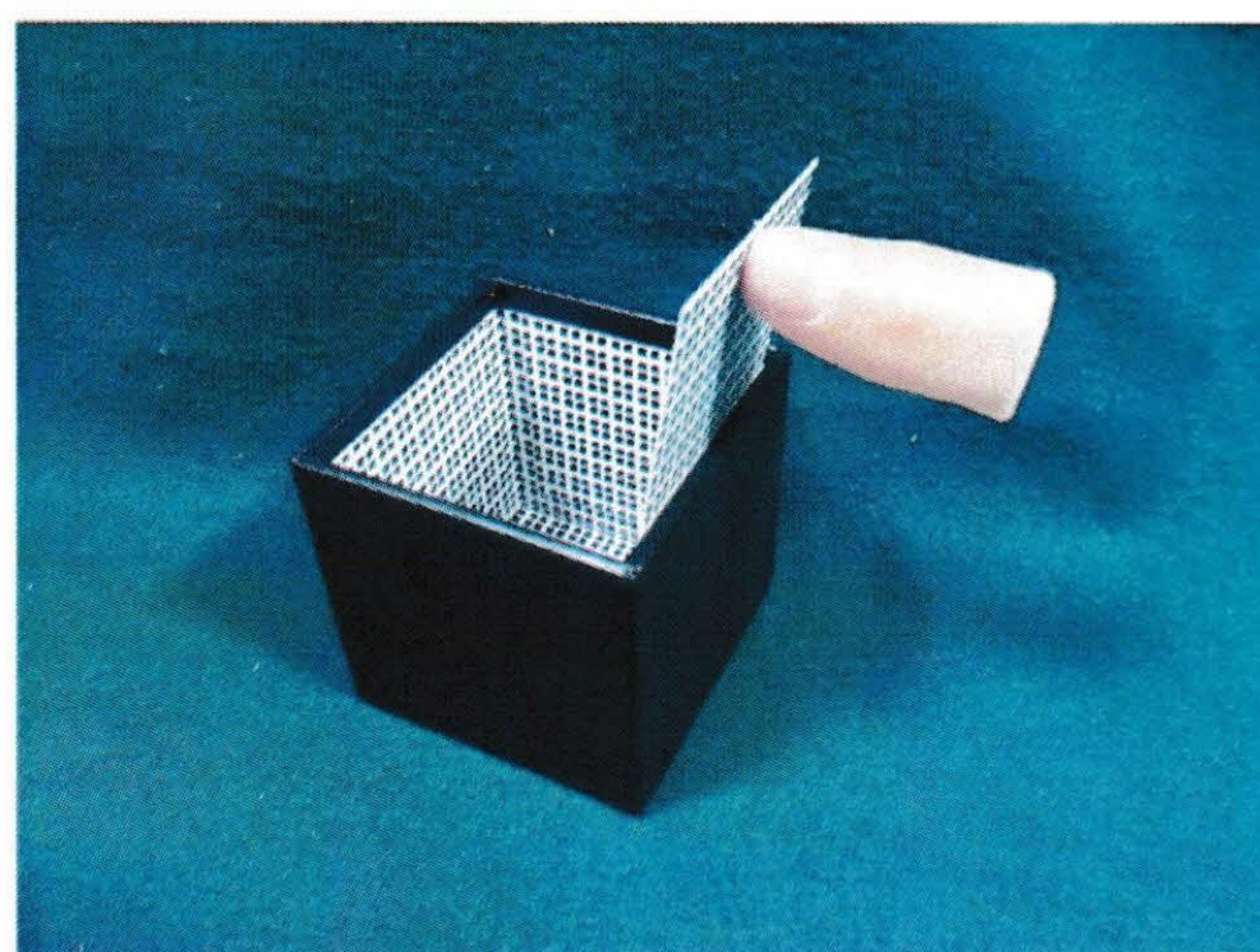


写真108

そんなに心配なら、製品として市場に出す前に、もっとフラップやサムチップや磁石を研究して、より商品として完成させてから世に出したらよかったのに、と言いたくなります。2番目のビデオは演技の説明です。アル・コーラン・デッキのことも説明されています。最後にボーナスとして、なかなか凝った演出の使い方が説明されています。このボーナスの演技はアンジェロ・カルボーン本人です。この演技は地味ですが、なかなか好感がもてるので、どうして宣伝動画を自分にしなかったのか不思議です。

3. 箱のメカニズム

さて、実際に箱を手にして練習してみると、解説ビデオを2段階にして、最初に箱の調整について詳細に説明していた理由が痛いほどわかります。箱の内側4側面には4つの予言の紙をセットすることになります。客の選んだカードによって、この4側面のうち、どの予言の紙を箱の中に落とすのか瞬時に判断しなければなりません。これは、箱の外側隅にドットが打ってあって、時計回りに4種類の予言を覚えておけば容易にできます。問題はその後です。箱の外からサムチップ内の磁石を使って、4側面の内の該当するひとつのフラップを外から開けて予言の紙を箱の中に落とします。次いで、箱を振って、中に紙が入っている音を客に聞かせますが、このとき同時に、箱を

振る動作によって、開いたフラップを元通りに完全に閉じさせます。マジシャンにとっては箱の中が見えないだけにかなり不安な過程です。ちょっとしたフラップの動きが悪ければ、予言の紙はスムーズに出てきませんし、仮に、無事に紙が出て来たとしてもフラップが元通りにきちんと閉じているかどうかわかりません。アンジェロ・カルボーンが最初の解説ビデオで、フラップの調整に拘ったのも頷けます。外からサムチップによってフラップを開けるハンドリングも、どの程度の力や位置で行うのか、コツを掴むまではかなり練習が必要です。該当する側面のフラップが、外からのサムチップの動きによって反応しなかったらこの手品は万事休すです。また、別の懸念は、箱を扱っているうちに、サムチップで側面を触れてしまって、予期せぬフラップが開いてしまうことです。こうした事態を防ぐためには、サムチップを箱の側面に当てる位置なども含めて、いろいろ試して練習する必要があります。

4. 実際の演技

実際に演ってみると、意外に上手く行きます。ビデオの解説では、箱の中にデッキとサムチップの両方を入れておいて、最初に箱を開けて、デッキを取り出すときに、右親指にサムチップを嵌めるといいと述べていますが、何回か試みてみると、これはちょっと危険なことがわかります。サムチップが横や斜めになっている場合があって、すんなり右親指に嵌めることができないからです。私（麦谷）は、演技の最初から嵌めていてもいいのではないかと考えています。

次に、やはり箱を不用意に右手で触るとサムチップを嵌めた親指の位置によっては中のフラップが開いてしまう可能性があることです。したがって、ハンドリングにも工夫が必要です。

5. "Revelation!"という手品用具(商品)

おそらく、この"The Gift"に触発されたのだと思いますが、どうせ、怪しげな箱を使うのなら、もっとメカニズムをきちんと備えた箱を作ったほうがいいと思った人がいます(写真109)。

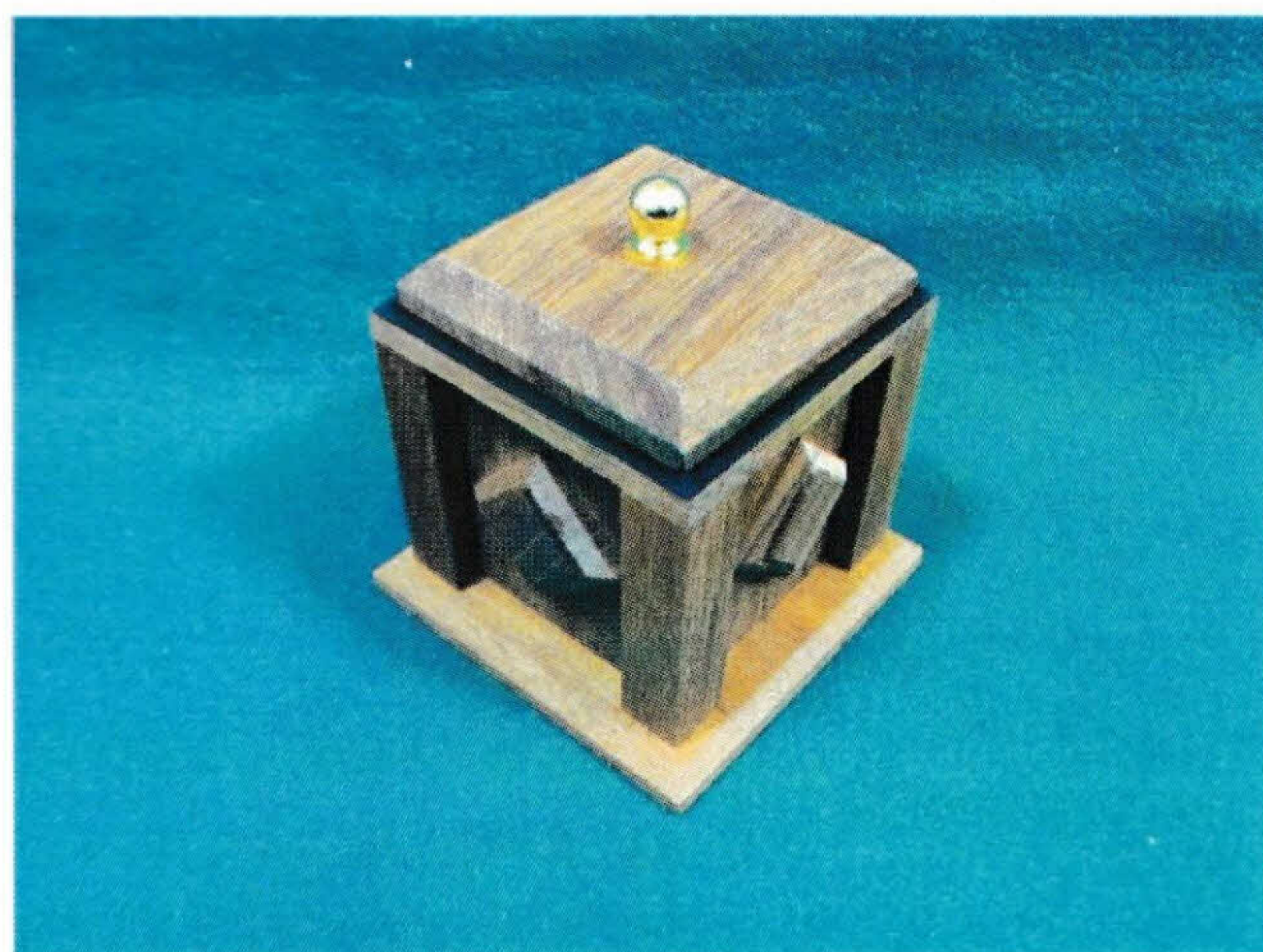


写真109

作ったのは、木製の奇術用具では定評のある MAGIC WAGON です。価格は310ドル(約3万3000円)ですが、すでに在庫はありません。この木製の箱は大仰で、明らかに何か仕掛けが

あるような雰囲気ですが、“The Gift”にはない利点が3つあります。それは、次の3つです。

- ①最初に予言の紙があることを客に見せられること。
- ②予言は4つではなくて5つまで可能であること。
- ③フラップの開閉の失敗がないこと。

このうち、マジシャンのストレスから言えば、フラップの開閉の失敗がないことが最大の利点です。また、サムチップを使う必要はなくなったのですが、その代わり、この木製の箱の操作が必要なので、これはどちらがいいとも言えません。予言の数が5種類に増えたことは、普通のデッキ以外にも ESP カードなどで使えるということで演技の幅が広がります。

6. “Revelation!”の実際の使い方

[現象]マジシャンは、5枚の ESP カードとひとつの木製の箱を示します。箱の蓋を取って、中を見せると、折り畳まれた紙が1枚入っています。マジシャンは、箱を傾けて、中から紙をテーブル上に出します。箱は空になります。「これは予言の紙です」と言いながら、紙は折り畳まれたまま、箱の中に戻され、蓋も閉めます。次に5枚の ESP カードを示し、客に任意の1枚を選んでもらいます。客が交換したいと言ったら、交換します。最終的に客が選択を確定したところで、木製の箱の蓋を取って、さきほどの予言の紙をテーブル上に出します。箱の中は空です。まず、客の選んだESPカードのシンボルを見ます。仮に☆であったとします。折り畳まれた予言の紙を拡げると、そこには☆のマークが書いてあります。

[準備]

- ①予言の紙を5枚作ります。この奇術用具の箱に添付されてくる紙が標準の大きさに、6.5cm×6.5cmの正方形です。紙質は普通の印刷用上質紙です。これに、それぞれ、ESP のシンボルを書いてから4つ折りにします(写真110)。

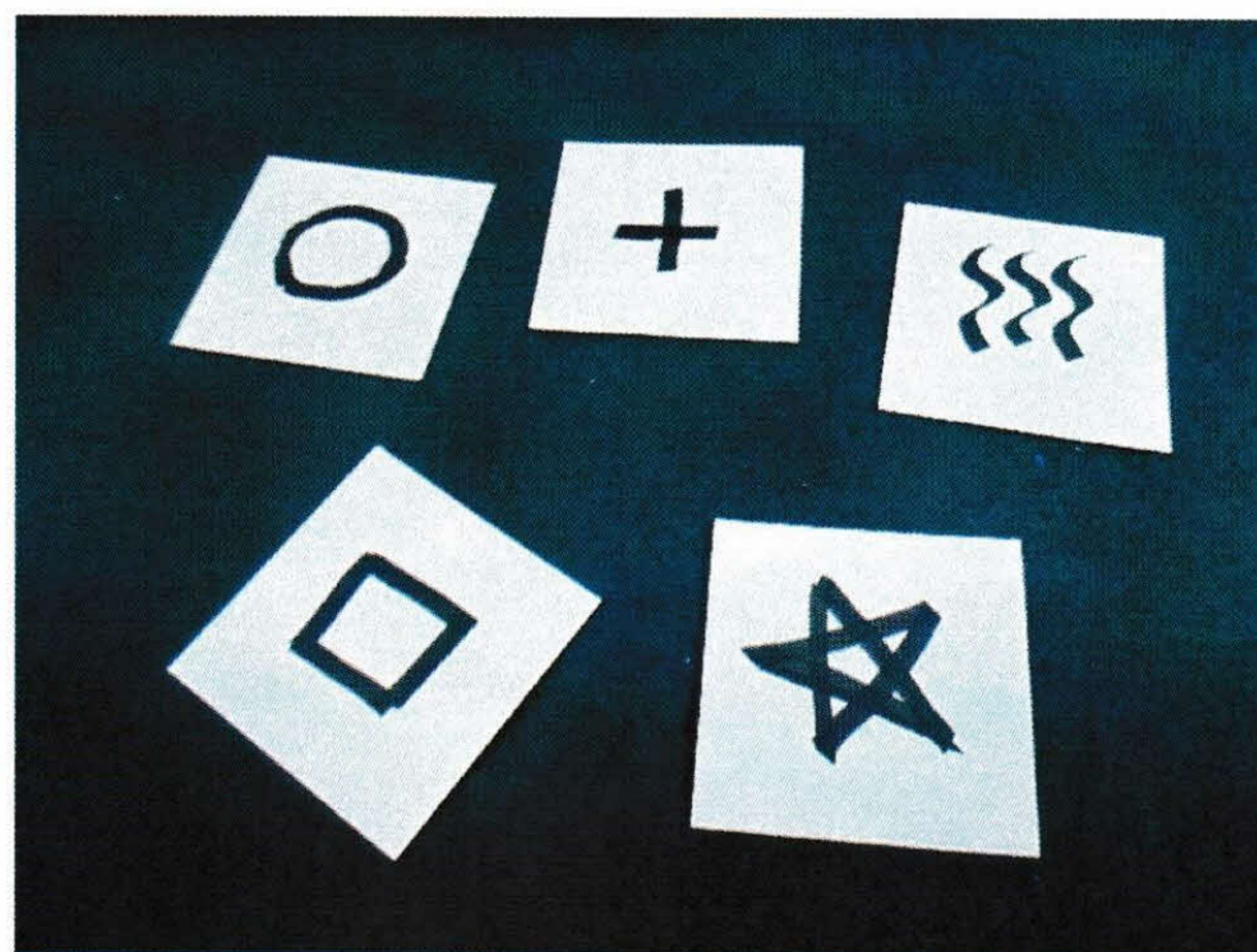


写真110

- ②準備した4つ折りの予言の紙を、それぞれの側面のフラップの中に時計回りに○(1画)、+(2画)、≡(3画)、□(4画)、の順にセットします(写真111)。側面のフラップを開けるには箱の外

側側面にある菱形突起を上へスライドさせて上げます。するとフラップが下に落ちて開きますので、その秘密の空間に予言の紙を忍ばせます。フラップを再び元通りに閉じるには磁石の着いた棒が必要で、これは添付されています。フラップを閉じたら、側面外側の菱形突起を下へ押し下げてフラップを固定します。以上のように、フラップの開閉を箱の外から行うには、箱の外側側面の菱形突起部分を上下して操作するのです。4つの予言をセットし終わったら、☆の予言カードは、箱の側面フラップをすべて閉じた状態で、箱の底に置きます(写真112)。セットが終わったら、蓋を被せますが、どの側面に何のシンボルを入れたかがわかるように、○(1画)を入れた側面が蓋の木目模様でわかるようにしておきます。もちろん、蓋や箱にドットを打っておいてもかまいません。残りのシンボルは時計回りに+ (2画)、≡ (3画)、□ (4画)です。

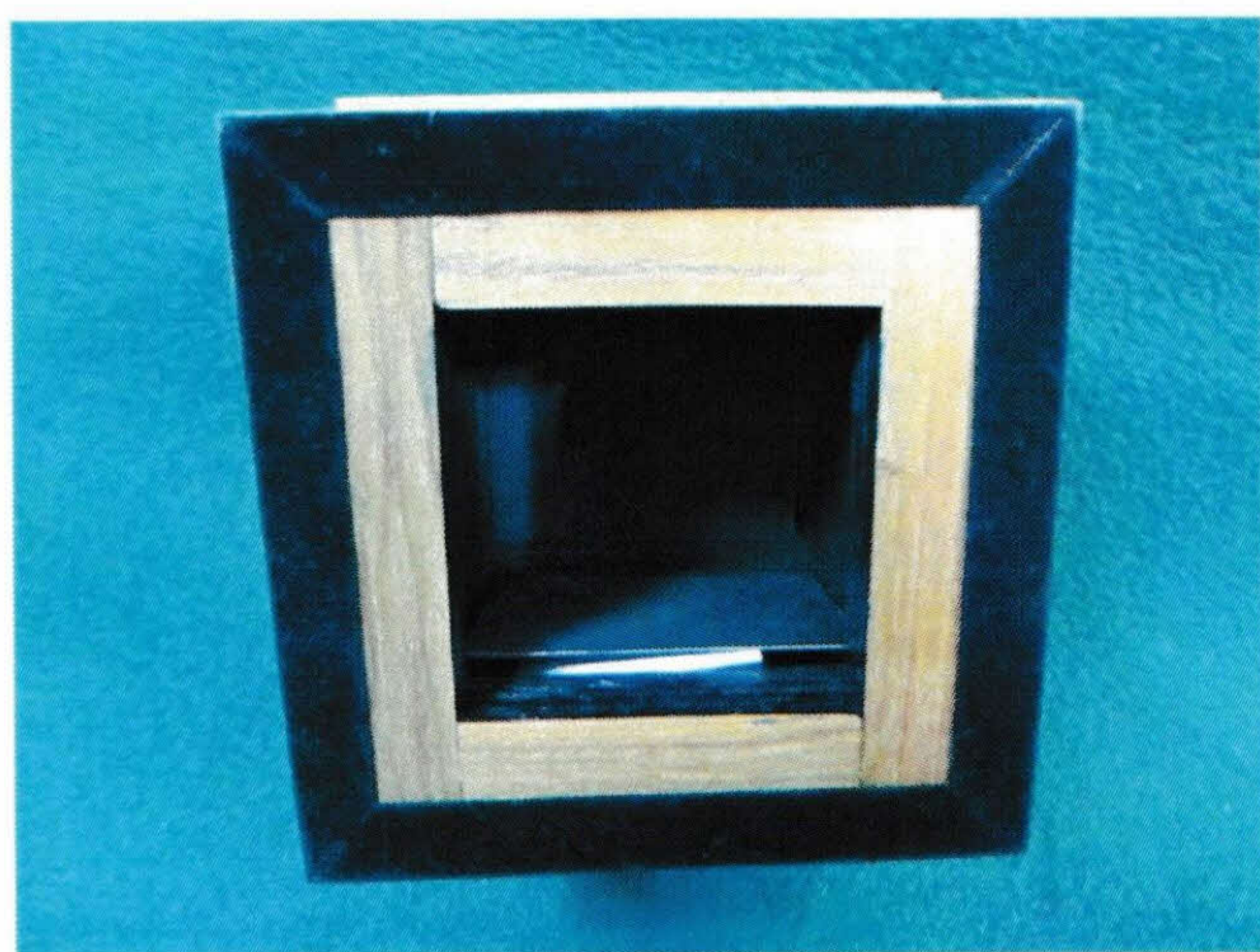


写真111

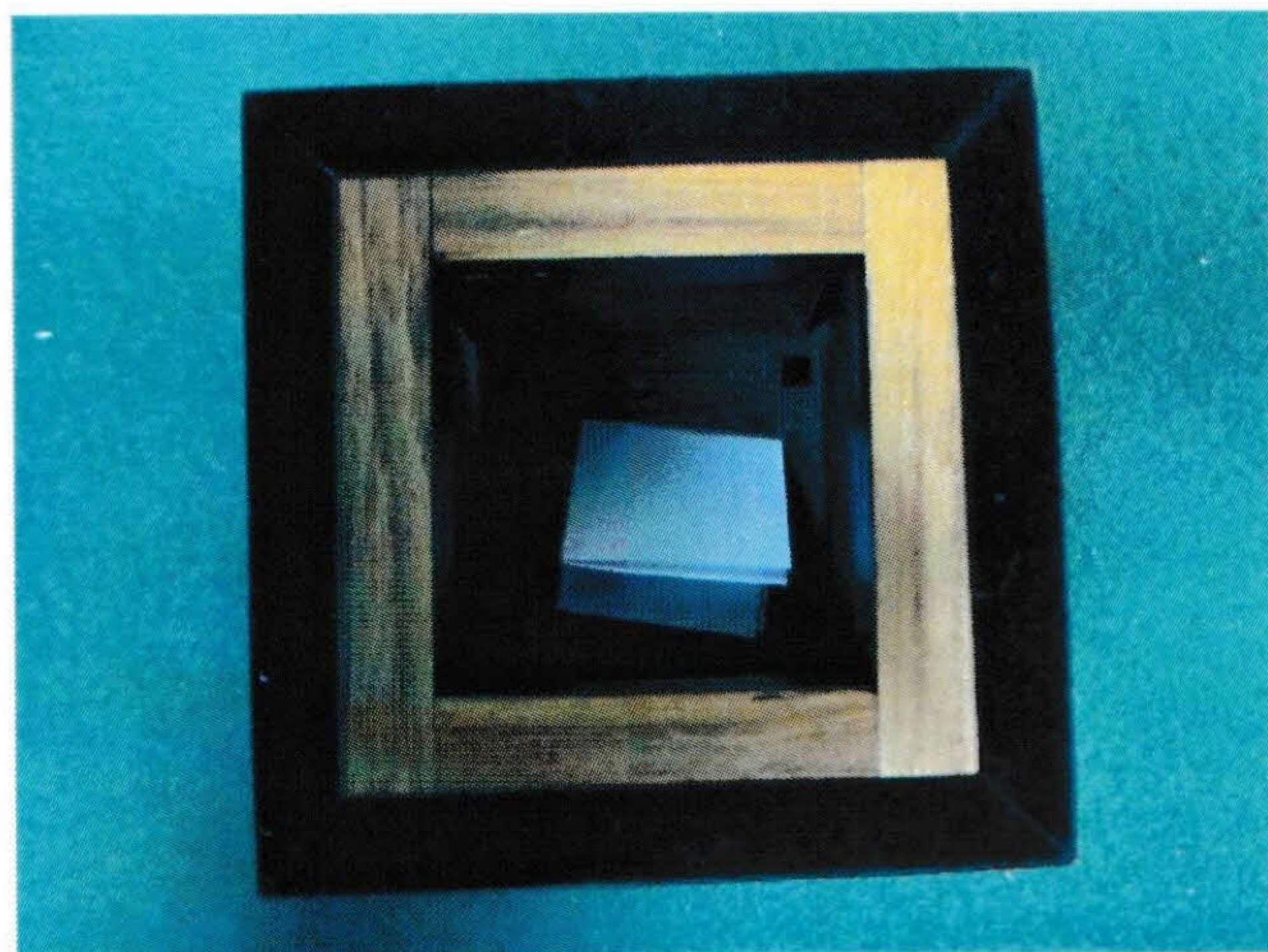


写真112

- ③ESP カードは、裏から見てわかるマークト・カードを使います。この“Revelations!”にも付いているのですが、それはいかにも裏からわかる感じのカードなので、さすがに実用的ではありません。市場には、ESP のマークト・カードはいろんな種類が出回っていますので、それを使ったほうがいいと思います。バイスкул裏の普通のカードやジャンボ・カード、あるいは、ボリス・ワイルドのマークト・カードを応用したものなどいろいろあります(写真113)。名古屋の「手品屋」が製作

販売している ESP カード(写真114)も裏からわかるマークのアイデアがユニークで、使い勝手も悪くないですし、ESP カード単独のステージ・マジックなどにはもってこいの商品ですが、なにしろ裏が真っ黒なので、この予言手品にはちょっと向いていません。私(麦谷)は、バイスクルのジャンボ・カードを使います。ボリス・ワイルドのマーク・カードは数字が見やすくいいのですが、私はすでに老眼なので、特に手元が暗いと同定するのがたいへんです。客の選んだカードの裏を凝視するのも変なので、一目でわかるジャンボ・カードは、マークも大きくて見やすいので判読するときの失敗がありません。



写真113

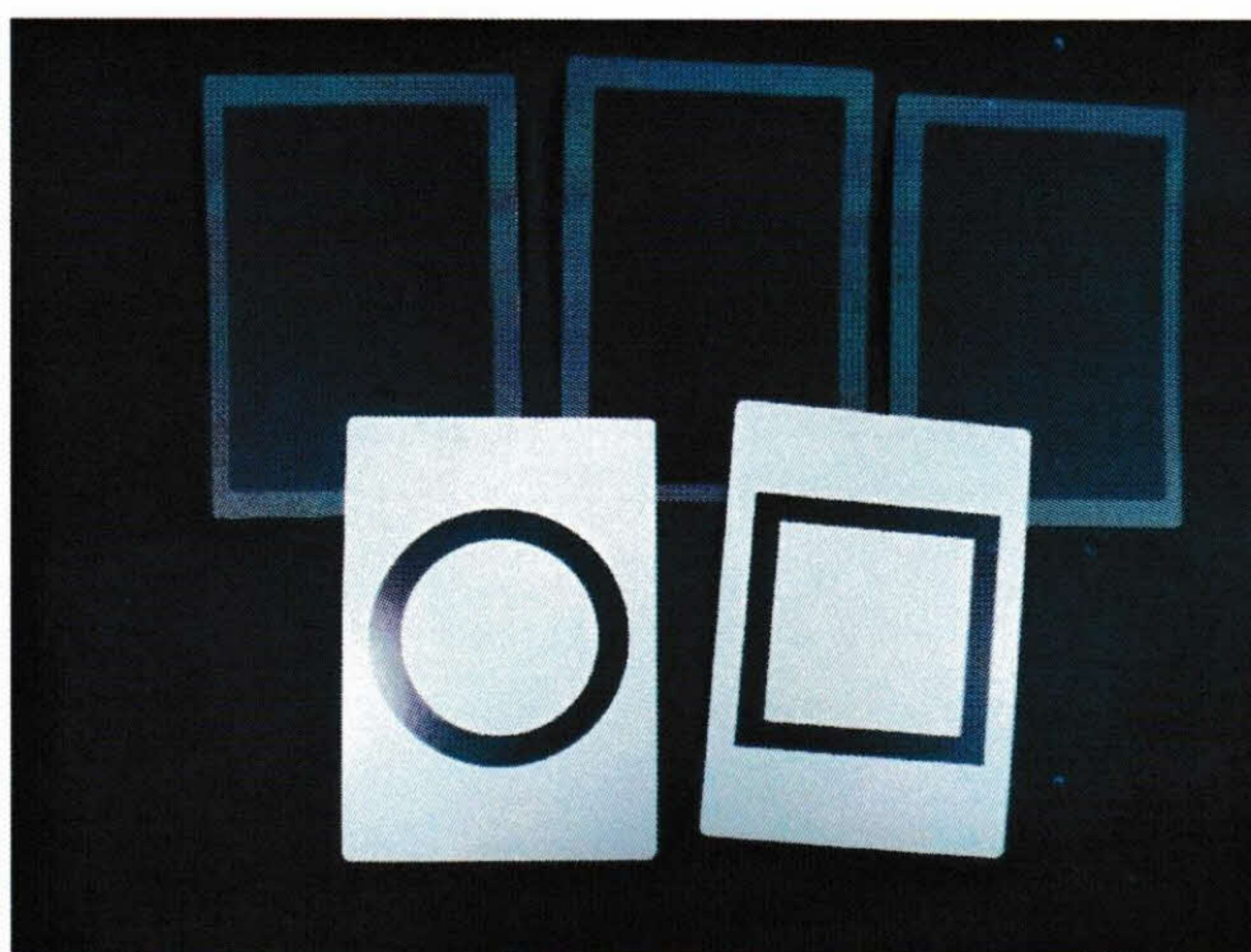


写真114

[やり方]

- ①蓋をしたままの箱を示します。「この箱の中には、紙が1枚入っています」と言いながら、箱の蓋を開けて、中に入っている紙を見せ、次いで、箱を傾けて、この紙をテーブルの上に出します。紙は4つに折り畳まれたままです(写真115)。ここで、何気なく箱の周囲を見せながら、「他には何も入っていません」と、箱の中が空であることを示します(写真116)。
- ②テーブル上に出された予言の紙を示しながら、「この紙には予言が書いてあります」と言って、紙を指先で取り上げ、再び箱の中に入れ、蓋をします。

- ③5枚の ESP カードを示し、「これは超能力の実験に使うシンボル・マークが書いてある5枚のカードですが、それぞれ○、＋、≡、□、☆、のシンボルが書いてあります」と言いながら、5枚のシンボル・マークを説明します。「それでは、この中からあなたに一枚のカードを選んでもらいますが、これから選ばれるカードが、すでに、この箱の中のさきほどの紙に予言してあります」と言います。

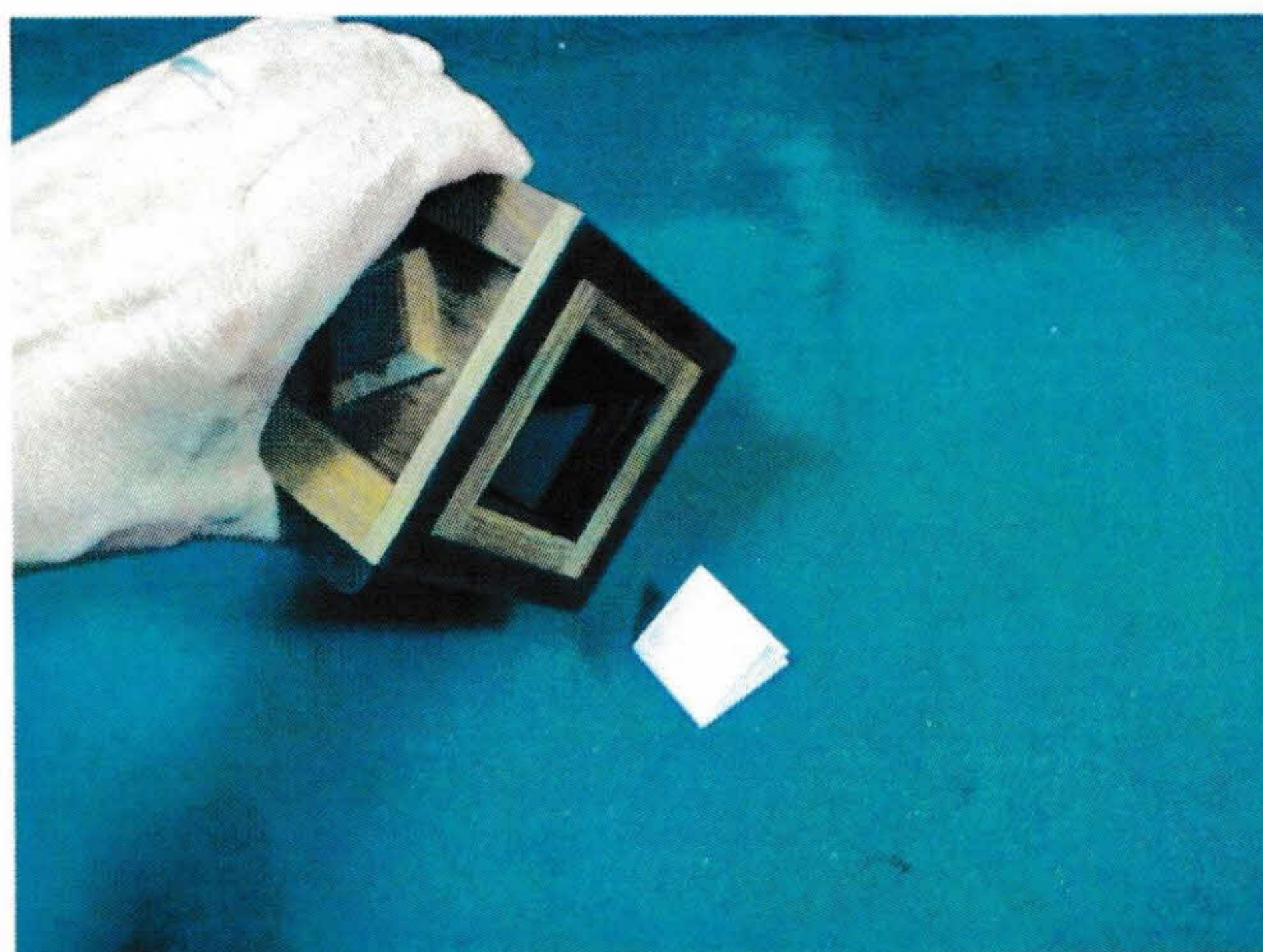


写真115

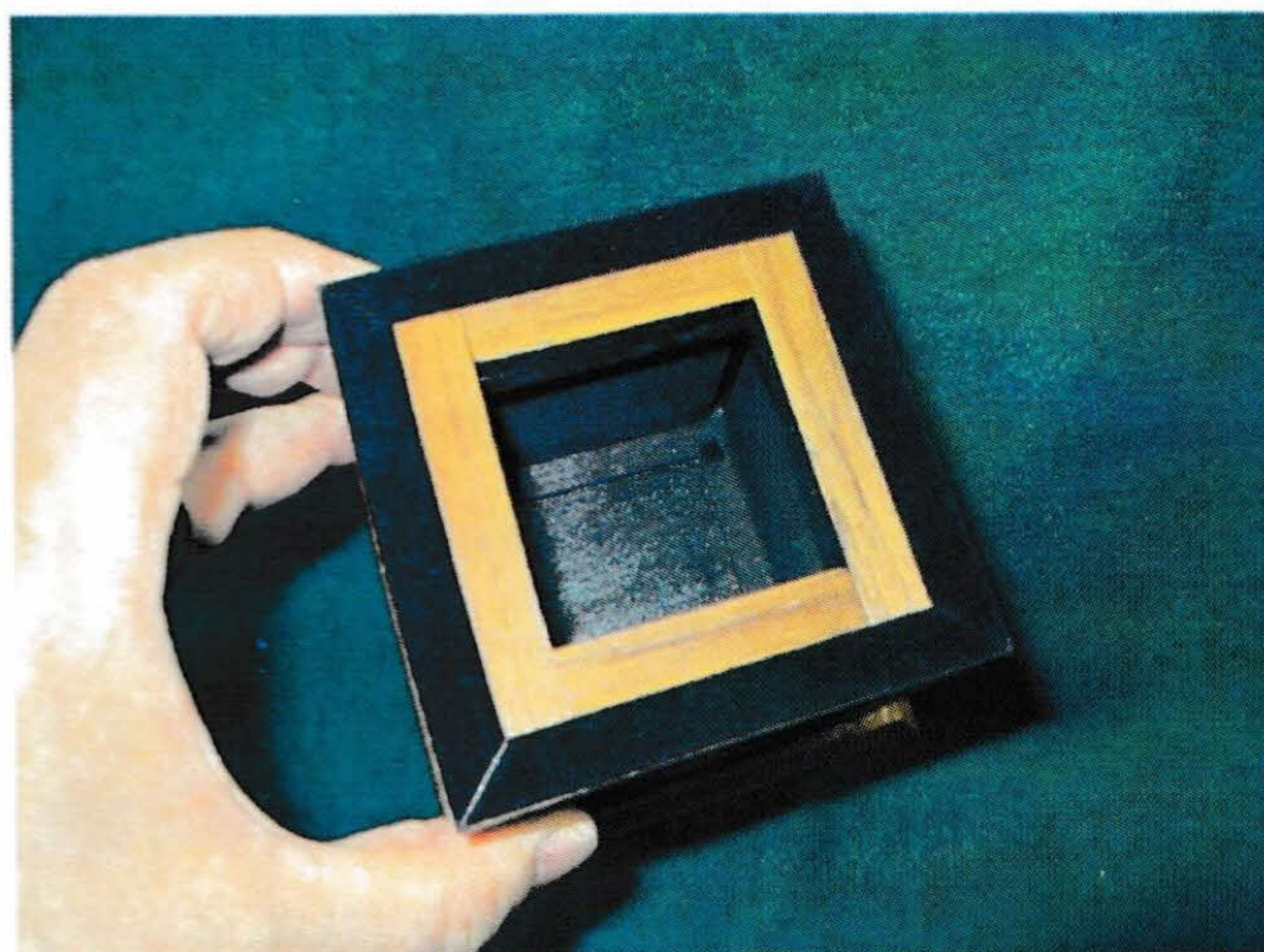


写真116

- ④客に、裏向きのまま5枚のカードを混ぜてもらいます。次いで、適当に1枚選んでテーブルの上に出してもらってもいいし、5枚のカードの表を見ながら、好きなシンボル・マークのカードを選んで裏向きにしてテーブル上に出してもらっても、どちらでもかまいません。客が自分の意思で1枚のカードを選んだら、いまならまだ交換できることを言います。客が自分の決定に満足したら、マジシャンはテーブル上の裏向きのカードのマークを見て、何のシンボルか読みとります。
- ⑤もし、客の選んだカードが☆だったら、奇跡が起こります。もうマジシャンが行なうことは何もありません。客に、箱の蓋を取って、中の紙をテーブル上に出すように言います。これは☆の紙です。客に、紙を払げて、中に書いてある予言を見てくださいるように言います。☆です。客が選んだ ESP カードを表向きにします。やはり☆です。予言はみごとに当たりました。

⑥もし、客の選んだカードが☆以外の、○、＋、≡、□のいずれかだったら、左手で箱を持ち上げる動作で、当該の側面の菱形を上に上げてフラップを落とします。このとき、箱の中では、セットしてあった当該のシンボルの紙があたかも始めから箱の底にあったかのように落ちます。そうしたら、右手で蓋を取って、左手を傾け、中の紙をテーブル上に出します(写真117)。あるいは、箱の中を客に覗かせて、中にある紙を取り出させてもかまいません。どちらにしても、紙を取り出したら、もう箱の中には何も残ってないことを見せるのを忘れないでください。これで、予言の紙に書いてあるシンボルと客の選んだカードのシンボルとが一致しました。

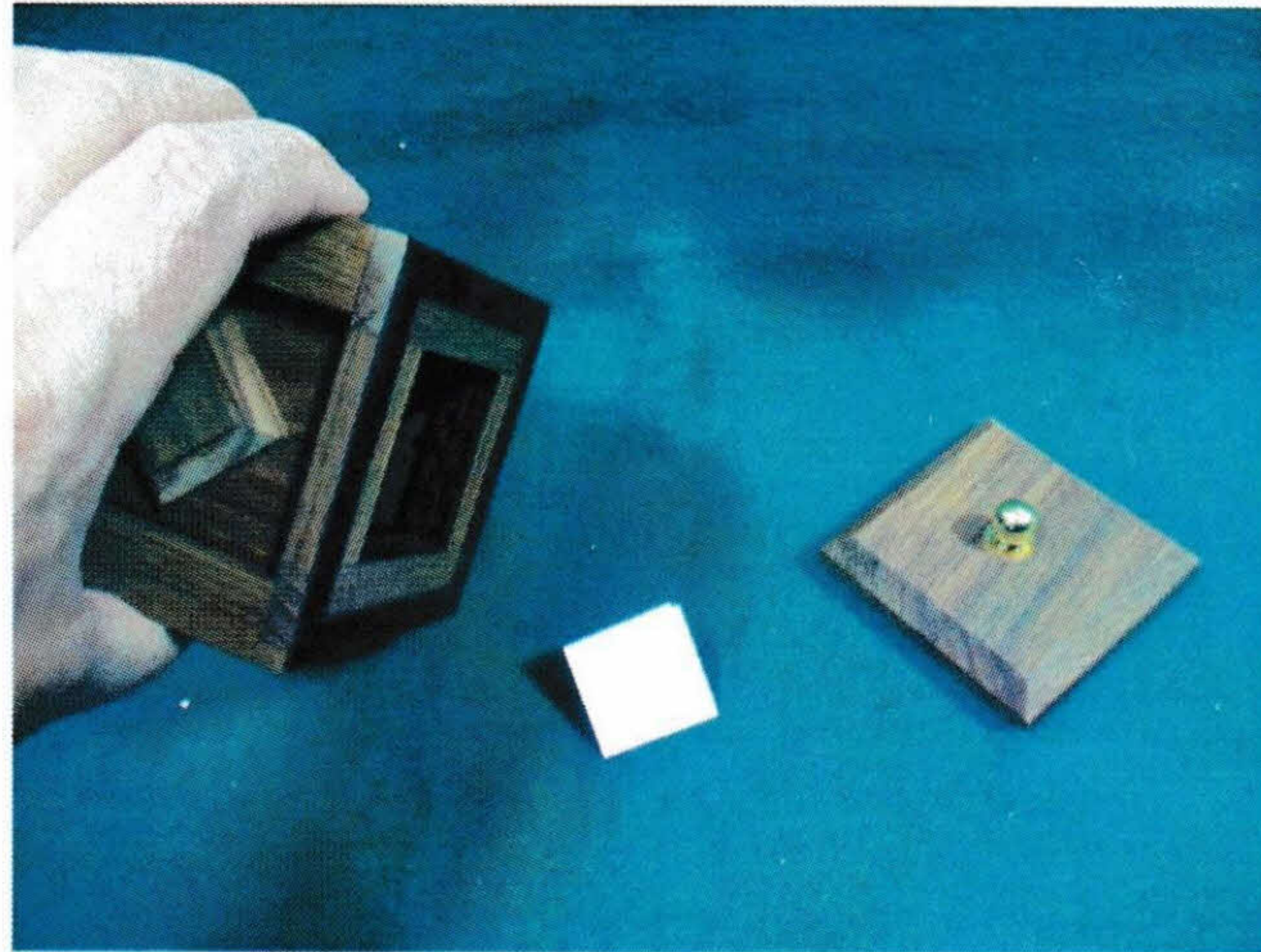


写真117

[コメント]

写真でご覧のように、この木製の箱の枠は、厚みが薄く見えるように、イルージョンの台の彩色ばりに一部黒くしてあって、カムフラージュの努力はしてありますが、いくらなんでも分厚くて、ここに仕掛けがあるのではないかと客に推測させるのに十分な程の厚さがあります。これが、この箱の最大の欠点です。前述の“The Gift”でしたら、とても側面に予言の紙を仕込めるようには見えませんので、客の疑念に関して言えば、“The Gift”に軍配が上がります。しかも、この木製の箱を客の手に委ねて改めさせるのは危険です。それは、誰でも、この箱の側面にある怪しげな菱形部分に触ってみたいからです。ということは、この箱を客に渡して点検させることはできないということで、まあ、この点は、“The Gift”も同じかもしれません。

両方の奇術用具に共通して言えることは、こんな小さな4つ折りの紙をしまうのに、どうしてこんな大きな箱が要るかという疑問です。この点はまったく解決しません。

ところで、デッキのカードにしる、ESP カードにしる、予言をしておいて、客の選んだカードが予言通りであるという手品の現象はいわば古典的なもので、分類するのがイヤになるほどいろんなパターンがあります。客が52枚のどんなカードを選んでも予言が当たるパターンでは、最後の瞬間まで予言を見せないことが普通です。逆に、最初から予言を見せておいて、客の選択がそれになるパターンもあります。今回の手品のように、もともと選ばれる対象の枚数が限られていたり、フォーースであったり、客が予言はひとつしかないと思っているのに、実はケースに応じて複数用意してあったりするパターンなどいろいろです。

Ring on Cord PLUS

CULL 山崎真孝

(まえがき) マスカレイドの読者の皆さん、はじめまして。金沢の“CULL”こと、山崎真孝です。

私は、地元で割とマジシャンと知られているので、飲み歩いているときにマジックのリクエストを受けることが多いのですが、いきなりポケットからカードを出すことは、『いつでもマジックの準備をしている感』が強く、何か気恥ずかしいところがあります。そんなときに重宝する一つが指輪のマジックです。何も無いところから指輪が現われ Garrett Thomas' Ring Thing や De Vo's De' ring 等の、消えたり、指にはまって出現したりする現象を愛用していました。単純で視覚効果が高く酔客相手に向いています。

これで興味を持って貰えた場合、もう少し演じるのに“指輪と紐 Ring on Cord”を使うことができます。これなら、さらに紐さえあれば良いわけで、外出時かさばらないことと、比較的角度に強く、ある程度の人数にも対応できるのが利点です。標準的な手順のあと、Emile Clifton's Ring move で消して、いつの間にか指にはまっている、というクライマックスです。

以前、大阪の根本毅氏が『ブレマ・プラス・テイラー』という商品を販売しました。ブレマというのは Carl Brema 発明のブレマ・ナットのことで、有名な「二つに割れるギミック・ナット」を利用し、両端を客に持たれた紐に通したナットがハンカチの下で外れる現象ですが、更に、いつの間にか術者がはめている指輪に紐が通っている、というクライマックスが追加された手順でした。

根本さんの解説には、出典が書かれていませんが、これは“Brema + Taylor”という作品で、雑誌 The Phoenix (Issue 297, P.1186 1954 年)に掲載されていることを発見しました。調べると Bruce Elliott が2年後、“Brema Plus Taylor”として“The Best in Magic”, P.73 に再掲していました。かなり気に入っていたようです。ちなみにテイラーを調べると・・・Dr. Franklin Taylor (1910-1960)。フェニックス誌を見てみると、この人の作品が沢山紹介されています。

あまり見かけない現象であり、意外性があるので、しばらく利用していましたが、ブレマ・ナットの利点をあまり感じず、原案もかなり「力業」的な部分が強く、結局全く違うハンドリングでレパートリーとしました。

原案では、ハンカチをヒップポケットにしまう口実で手を後ろに回し、こっそり指輪を抜いてカール・バームして前に出してきて、紐を受け取りつつ通してしまうのです。これは通用するでしょうが、あまりにも煩雑な方法と感じたのです。

ブレマのようなギミックを使わなくても、ほぼ同じ効果が生み出せる指輪と紐の手順が沢山あり、この程度の現象を起こすためにわざわざハンカチで隠す、というのも現代的ではないと思い、ナットから指輪に変え、ハンカチを使わない手順を組み立てました。

[現象] 小さな木箱を取り出し、中に入っている「魔術に使う指輪」を取り出します。靴紐に指輪を通

しますが、端を通過させず、中央から抜け出します。お客さんに通して貰っても離脱します。もう一度通して、抜けますが、すぐに消えて、紐に返っています。

紐に通して手に握り、紐を手の甲でクロスさせて抜け難くするのですが、今度は消えて、木箱に戻っています。

更に難しくするために、紐に指輪を通し、両端をお客さんにつかんで貰います。それでも離脱します。そのまま持って貰った状態で紐に戻す、と宣言しますが、上手くいきません。失敗かと思いきや、最初から術者がはめている指輪が紐に通っています。

[準備]

①魔法の指輪：大きくて太く、一目で『切れ目』がないことが分かるもの(写真118の太く白っぽいほう)。

同じデザインのもの2つ。私は、エスニック雑貨店で、貝細工の700円ほどのものを使っています。南洋の魔術師が使いそうな、奇妙なデザインが彫られており、この演出にうってつけです。



写真118

②指輪：こちらはなるべく目立たない普通の指輪で、切れ目のないもの。左薬指にはめるのですが、通常のサイズでは抜きにくいので、ワンサイズ大きめにします(写真118の黒っぽいほう)。

③靴紐：黒い太く長めのスニーカーなどに使う市販品。靴屋さんで購入できます。

④木箱：魔法の指輪が丁度入るもの。これは何でも良いし、普通のリングケースで良いのですが、私はこれもエスニック雑貨店で見つけた300円の箱を使っています(写真119)。

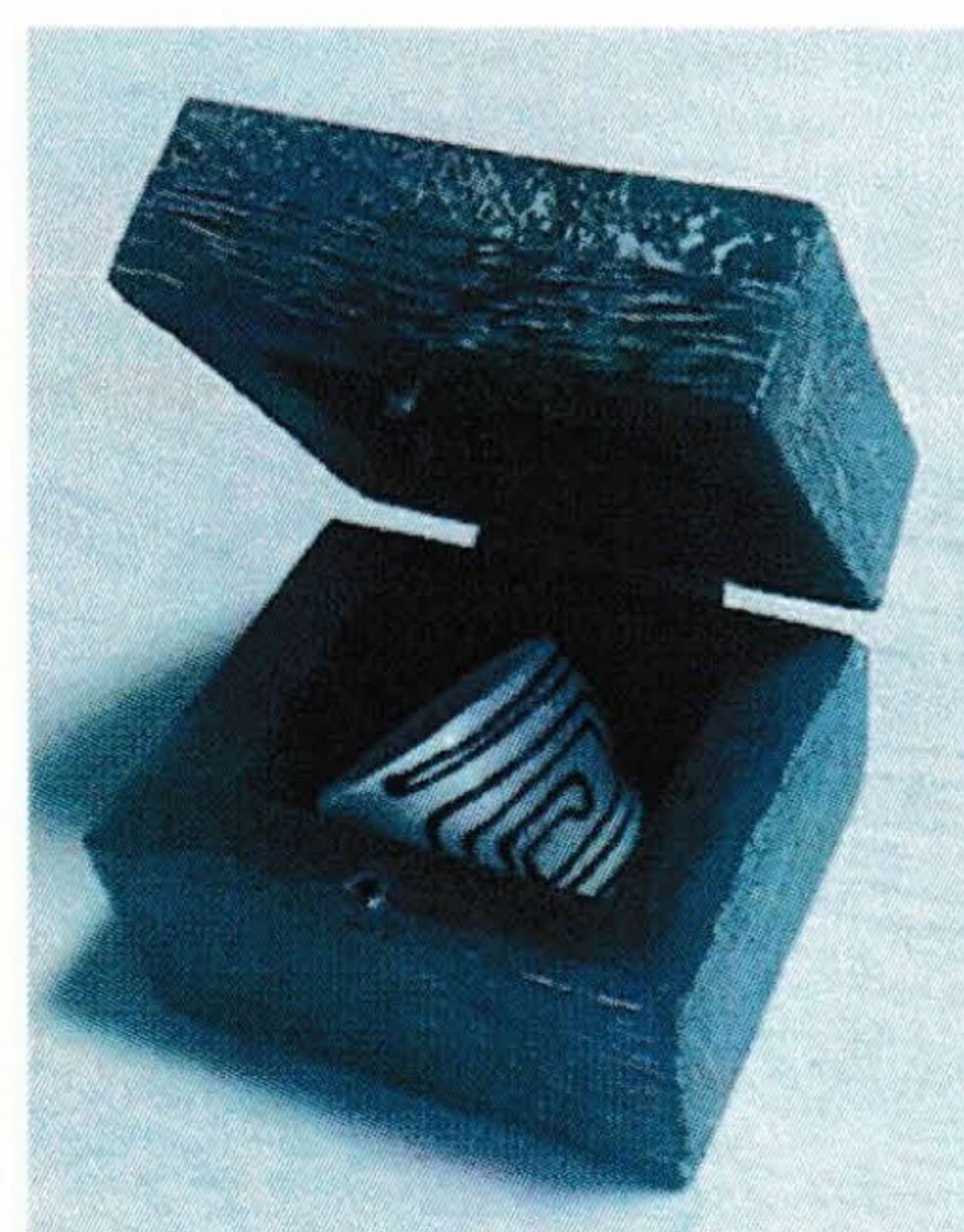


写真119

左薬指に指輪をはめ、魔法の指輪をパームしておきます。
右ポケットに海外のコイン1枚を入れておきます。

[やり方]

①木箱を出して、パームしている左手で持ち、右手で蓋を開け、一旦右手で箱を取り上げ、魔法の指輪を見せます。「これは魔術に使う指輪です」左掌に指輪を落とすフリで、実際はシャトルパスをします。すなわち、右手で箱を手前に傾け、客の視界から指輪が隠れたら右親指で落ちないように押さえます。同時に、左手を開いて、パームしていた指輪がみえるようにして、箱の中の指輪を受け取ったように見せます。右手だけで、箱の蓋を閉め、テーブル中央に置きます。「今から、この特性を使って少々芸をお見せします」

《第1現象》“Earl's Ring Move”, (Earl Nelson's Variations, p.108)

②左親指と人差指で、魔法の指輪の太い部分(普通なら宝石が付いている部分)をつまんで持ち、腕を胸の高さまで上げて、掌を客側に向けます。靴紐を図1の様に右手で持って、端を指輪に少し通します。

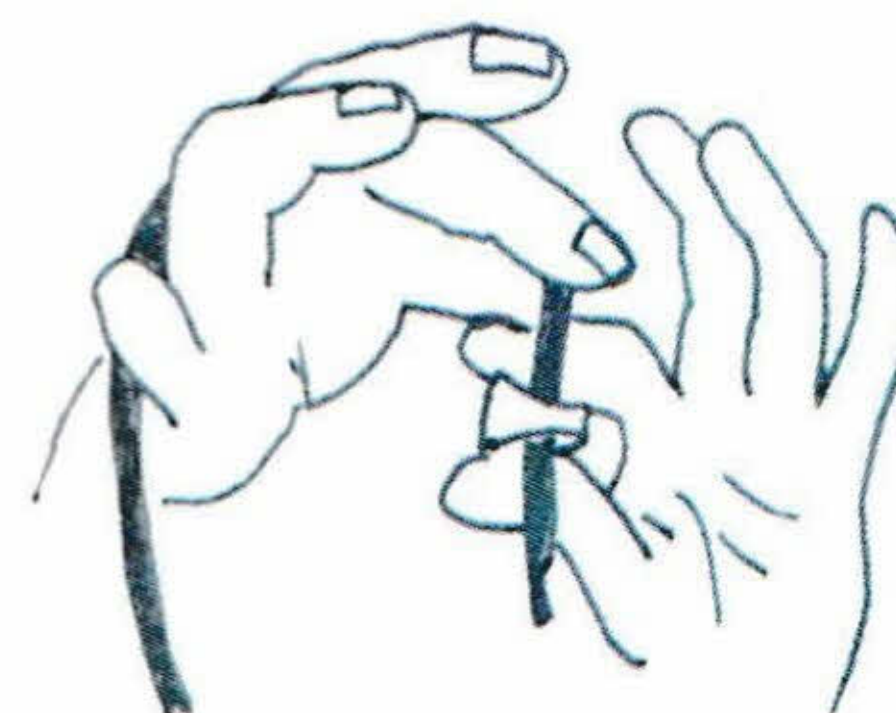


図1

③このまま、両手の甲が客側を向くように下に回転させますが、この動きの中で、まず紐の長く延びた部分を左中指に引っかけます。(図2の上図)

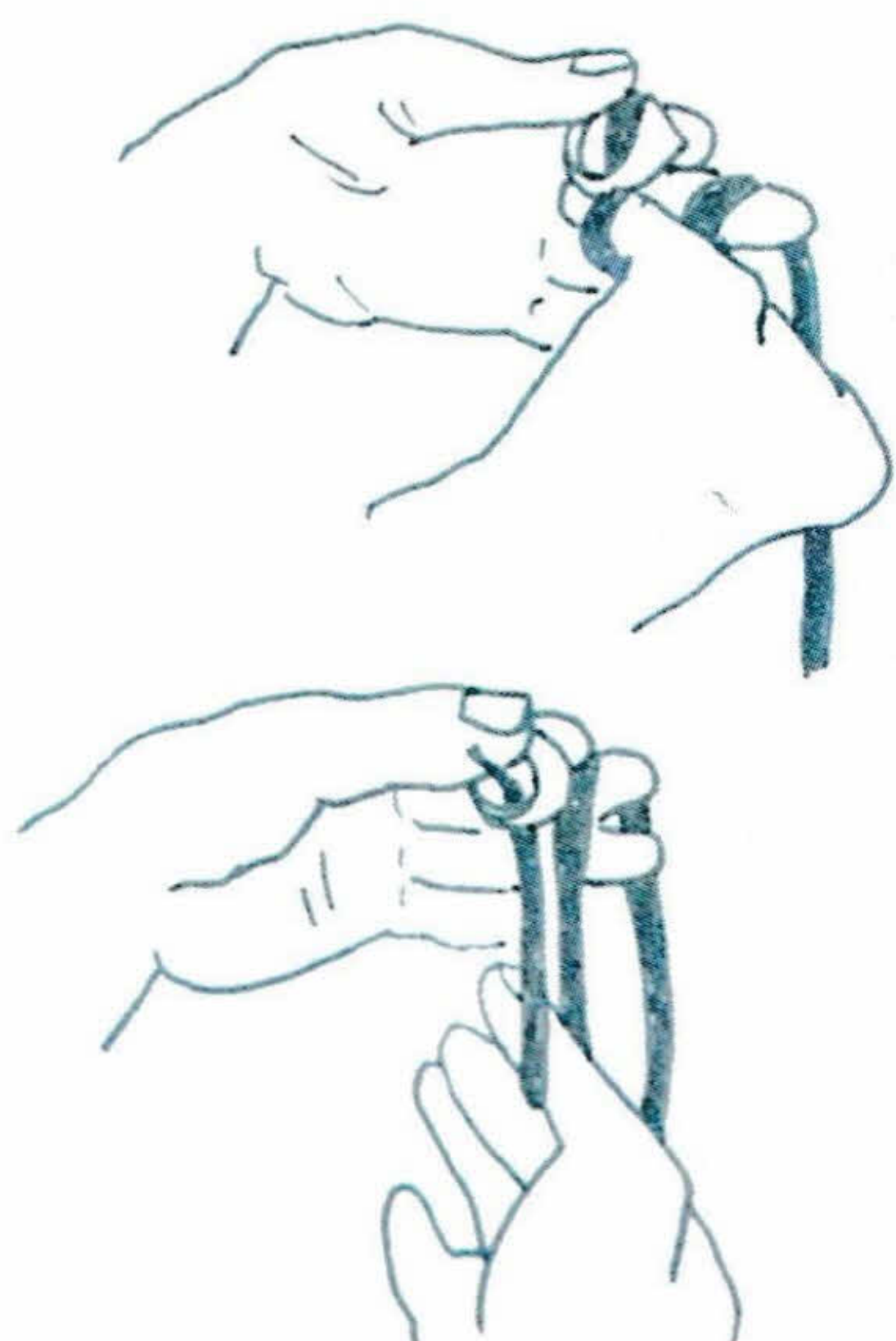
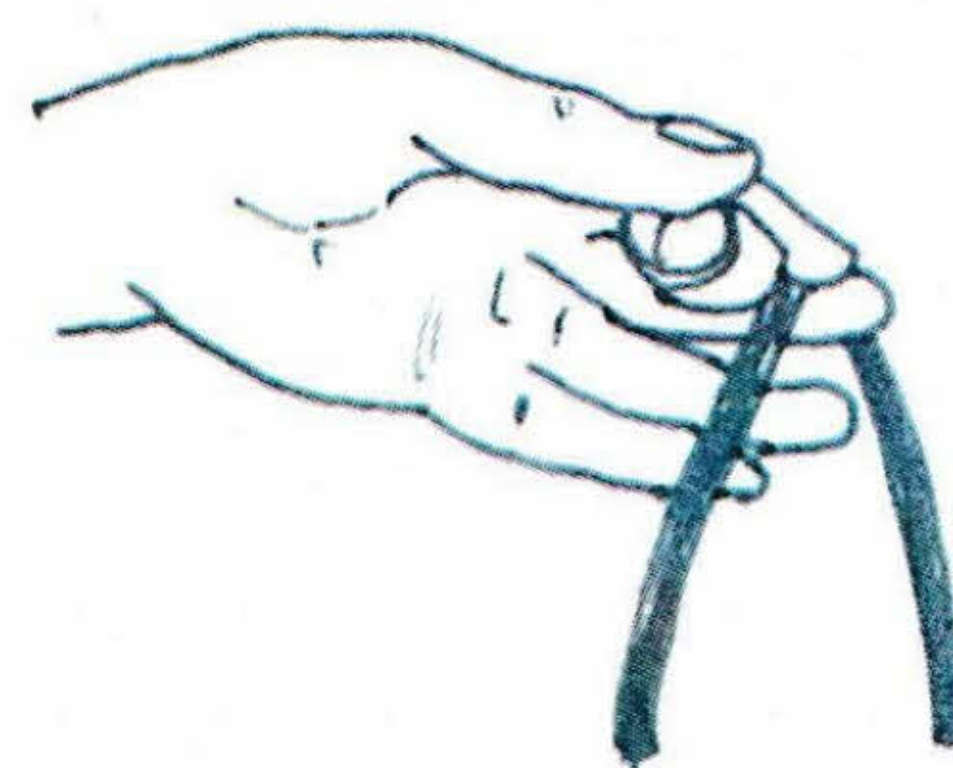


図2

④そして、右手はそのまま紐をつまんで下ろします。すると、自動的に先ほど通した端が指輪から抜け、下に引っ張られていきます。客側から見ると、左中指に紐が掛かっており、指輪の位置にループが固定されているため、指輪に通った状態で、紐の中央まで指輪が移動したように見えます。(図2の下図は移動の過程)



⑤紐の中央が左中指に掛かる位置まで紐を引いたら手を離し、紐中央を左人差指、中指で挟みます。左中指と薬指を開いて、親指と人差指で保持している指輪を、この隙間に紐と一緒に押し込みます。(図3)

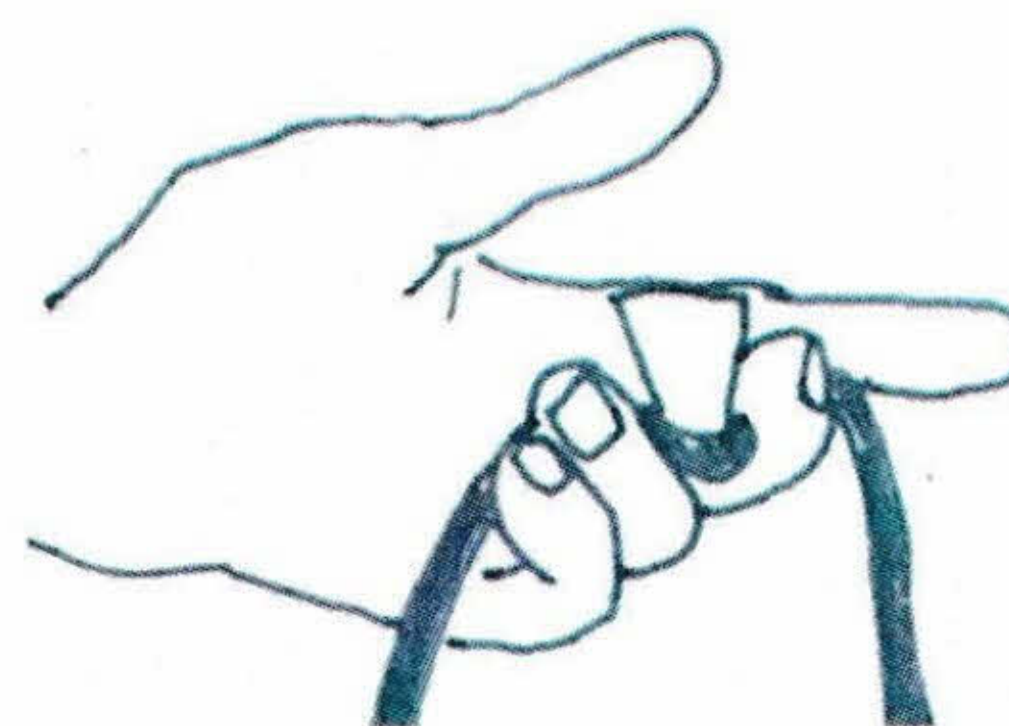


図3

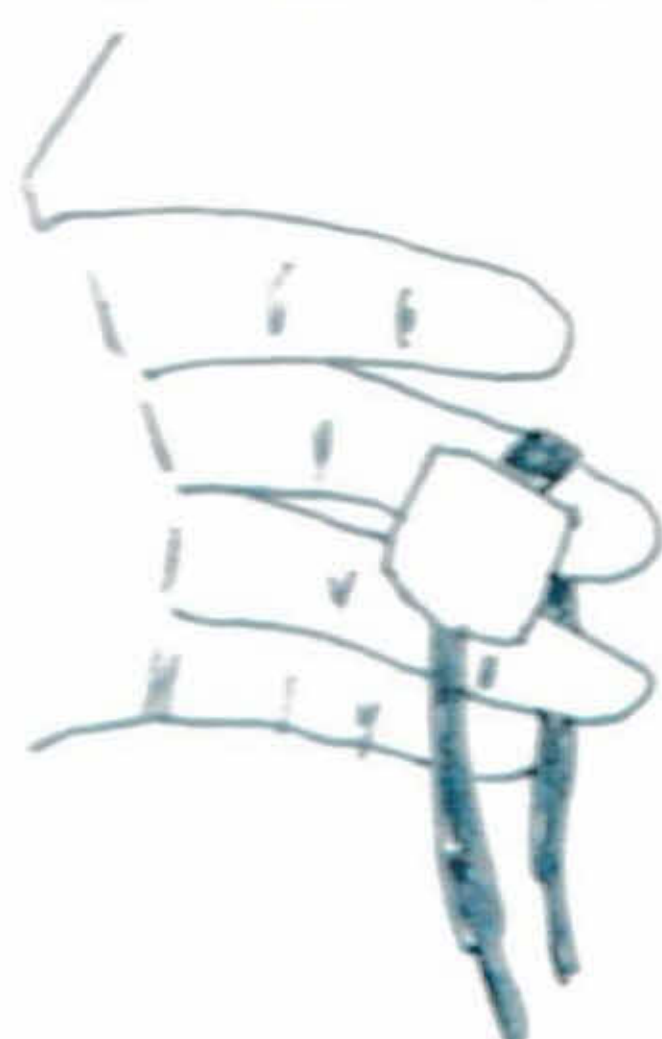


図4

⑥この状態で指を閉じて掌を上に向け、指先が客の方に向くよう回転させると、紐が指輪に通っているように見えます(図4)。

⑦親指で指輪の小指側のエッジを持ち上げるようにして、親指と中指の先に指輪をはさみ持つように移動しますが、依然紐は指輪に通っているように見えるはず(図5)。

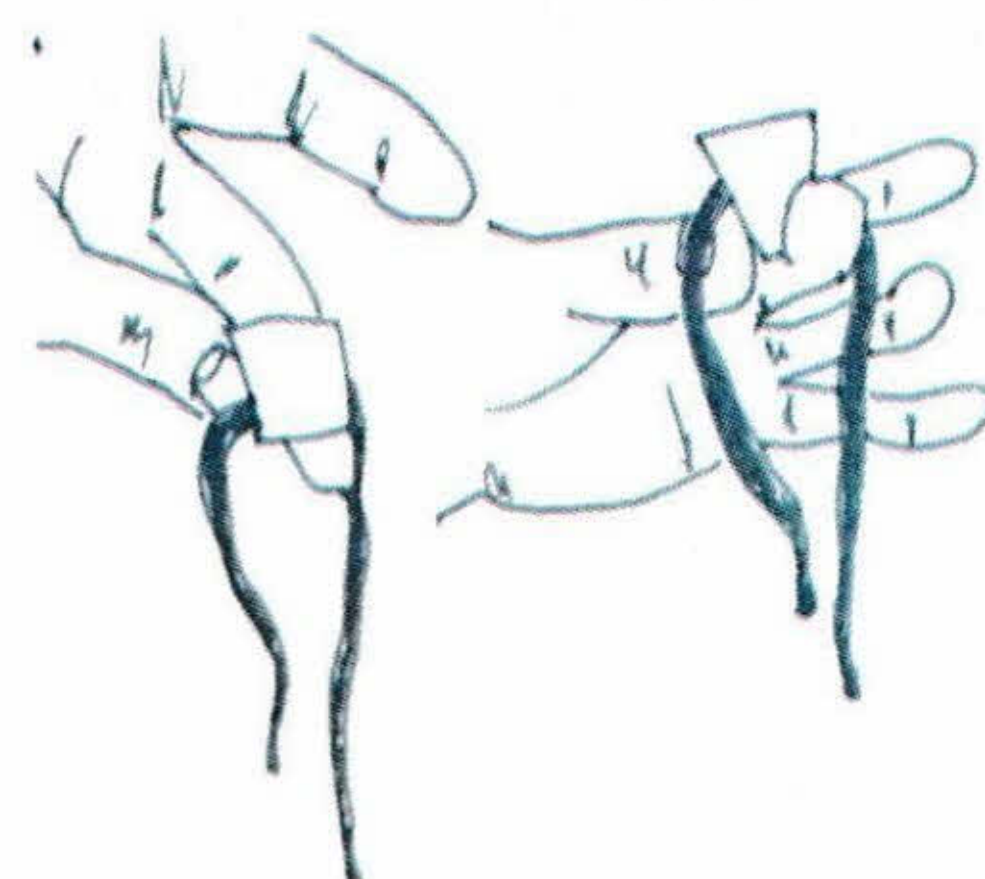


図5

⑧ここでおまじないを掛け、右手で紐の両端をつかんで引っ張ると、指輪は紐の中央から抜け出したように見えます。

《第2現象》

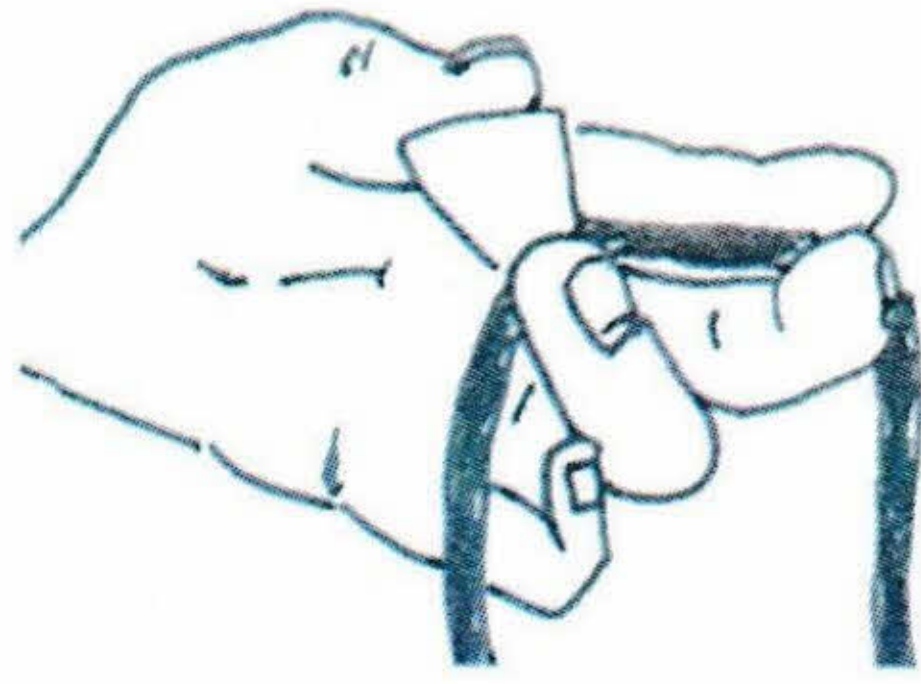


図6

⑨紐と指輪を客に手渡し、紐を通して貰います。紐が通った指輪を受け取り左親指と薬指で指輪をつまんで持ちます。紐の右端を人差指と中指に挟んで、紐が通っていることを見せます(図6)。

「今回はお客様に通して頂いたので、確実に通っていますね」

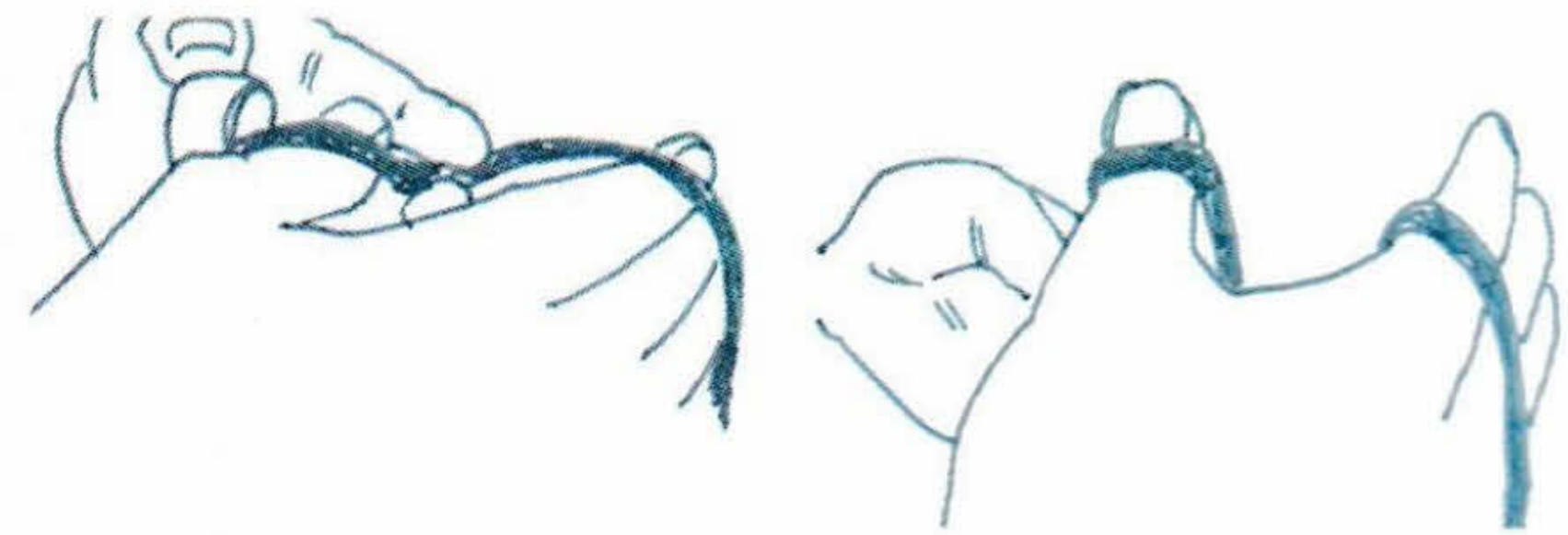


図7

⑩左手の甲が客側を向くようにしてから、右手を図7の様に下から差し込み、右手の陰で、親指を、紐の指輪と人差指・中指で挟まれている部分の間に引っかけます。紐を持ち上げていくと、自然と

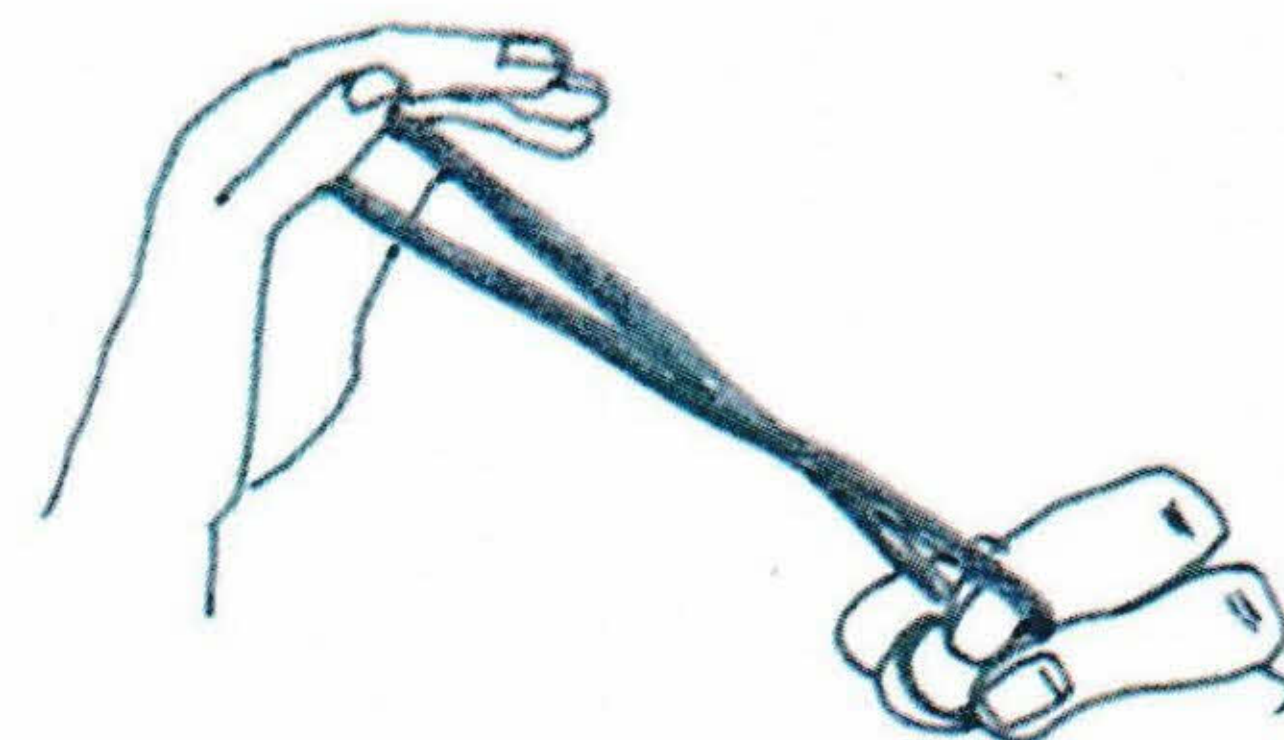


図8

見るとまだ指輪に通ったままに見えます。

⑪右手が紐の端に到達するまで引っ張り上げ、おまじないを掛けた後、ループが引っかかっている、左手の人差指を緩めて、指輪が抜けたように見せます(図8)。

《第3現象》

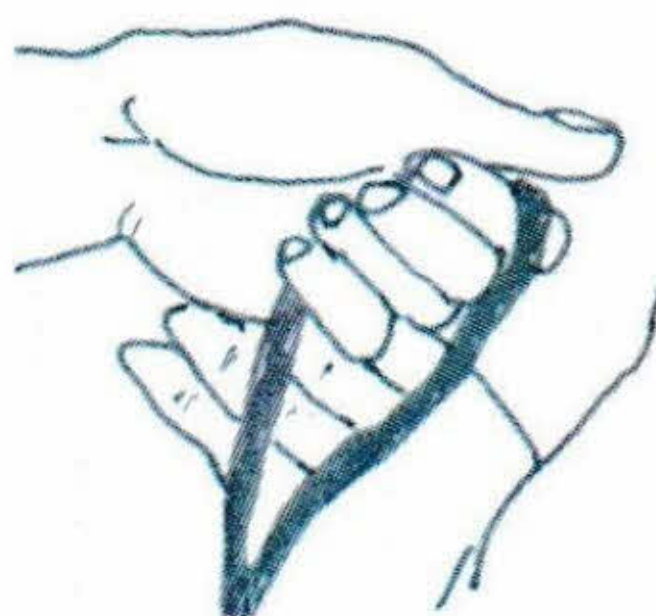


図9

⑫もう一度普通に指輪を紐に通し、右手で紐の端をつかんで指輪を振って、確実に通っていることを示します。指輪を左掌に乗せ、紐の端が、それぞれ親指側、小指側から垂れるようにします。指輪を握りこみます(図9)。

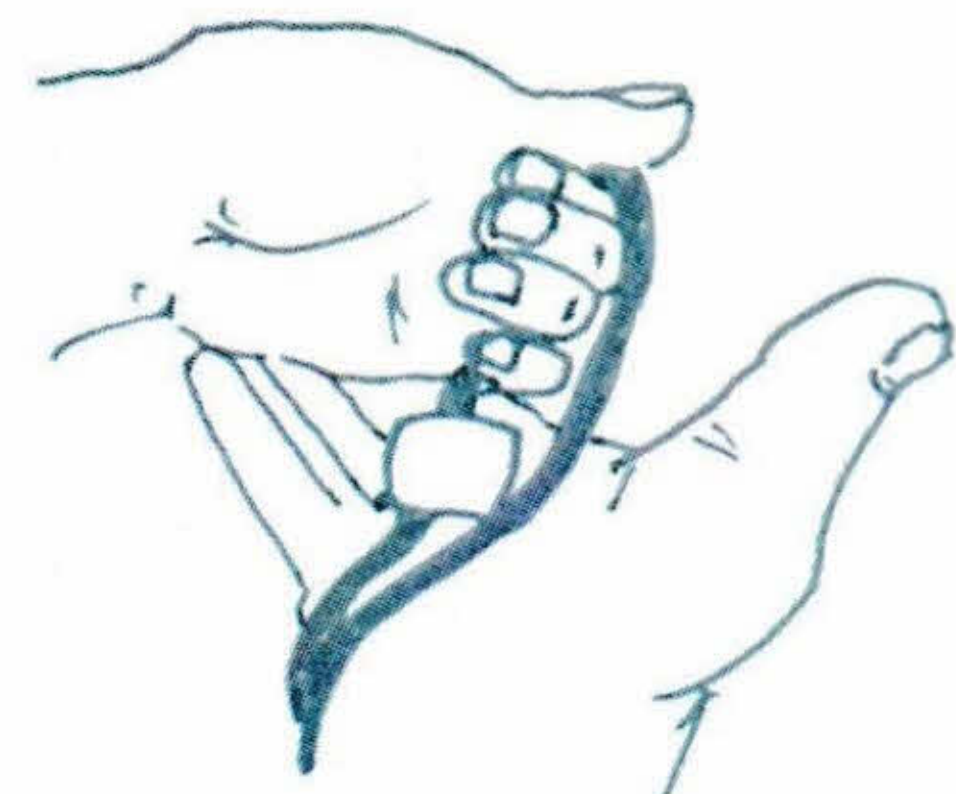


図10

⑬「実は、何度か魔法を掛けていると、頭の中でイメージしただけで魔法が掛かります」

こう言いつつ、右手を左拳の下に回し、紐の両端をすくい上げる様にし、その陰で左手を緩めて指輪を右手の中に落とします。(図10)このまま、右手を上げていき、紐の端から5cm程の所まで来たら動きを止めます。客はまだ指輪は紐の中央、左手の中にあると思います。少し間を取り(頭で魔法のイメージを作っているフリです。)左拳を緩めて右手で紐を引っ張り出しますが、まだ左手は開きません。ここでお客さんは、紐が抜けたので、前段階同様に指輪が離脱したと思います。

⑭「でもこうすると指輪は消えて、ここに戻ってきます」左手に握っていると思われる仮想の指輪を上空に放り投げるフリをして、視線がそちらに集まった瞬間に、右手を緩めて指輪を紐のルー

プ部に落とします。指輪を消した演技のあと、台詞と共に右手を持ち上げ、指輪がぶら下がっていることを見せます。

《第4現象》“Clifton's Ring Move” (Earl Nelson's Variations, p.103)

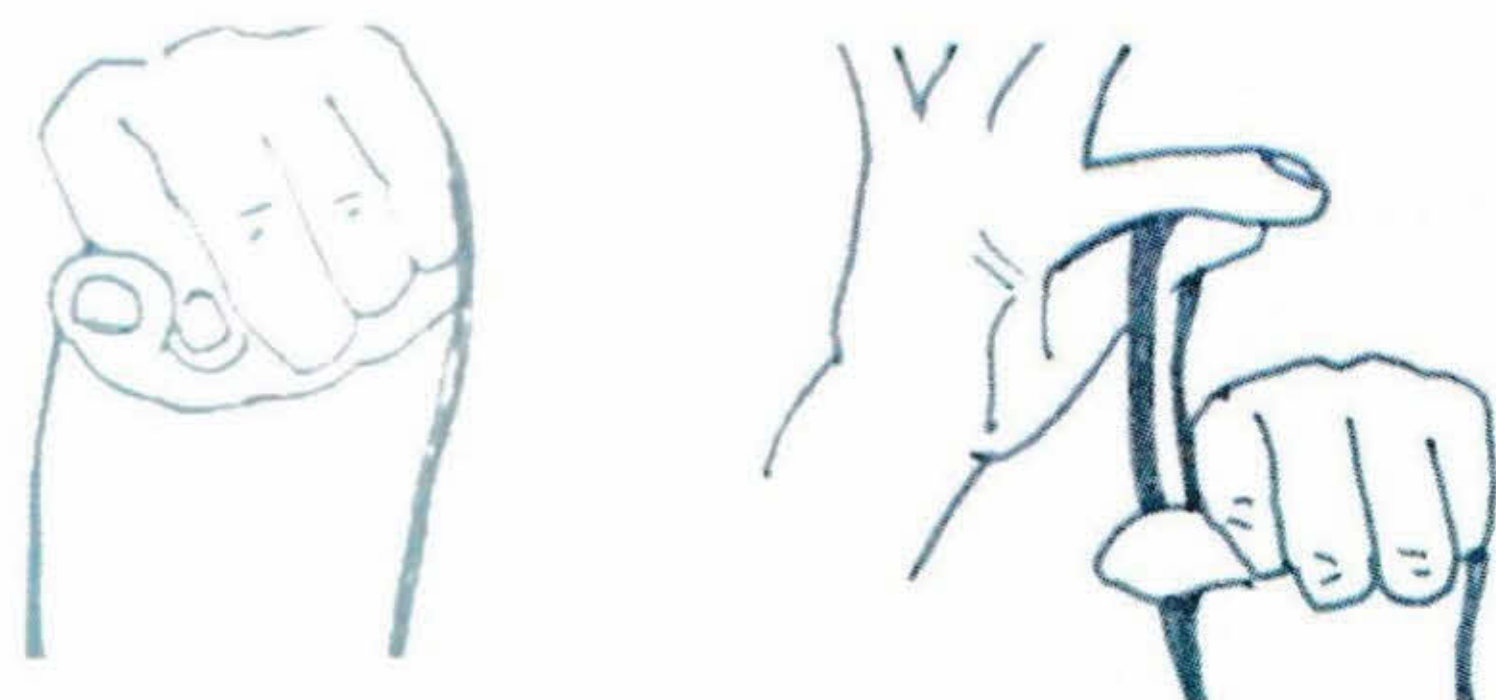


図11

⑮まず、指輪を左手に握りこみます。そして、親指側から垂れている紐を右指でつまんで、左拳に掛けるようにしますが、図11ではわかりやすいように右掌をお客に向けて開いています。実際は違います。

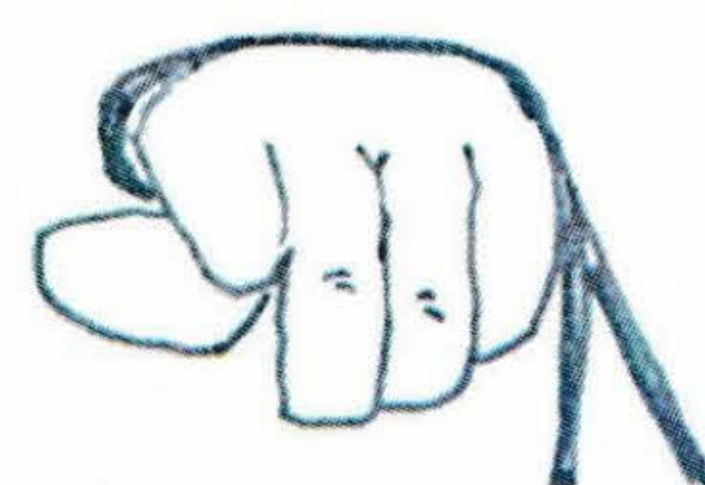


図12

⑯親指側の紐を左拳に掛けるのです(図12)が、ここで『指輪を右手で抜き取った疑いがかかる動作』をします。すなわち、紐をつまんだら、左拳の横に右手をくっつけ、すばやく握り、指輪をこっそり渡したフリをします。右手は握ったままで紐を左手に掛け、右手は紐をそのまま離さず、紐の端まで引っ張っていったから離します。これは指輪を紐から抜き取ったように見える動作です。そして、小指側から垂れている端を拳に反対方向に掛けますが、右手はぎこちなく握ったままで行います。少し間を取ってから、左手を開いて指輪がまだ紐の中央にあることを見せます。「皆さんの目が怖いので緊張します。まだちゃんと紐に通っていますよ」

⑰先ほどと同じ動きをしますが、今度は親指側の紐を掛けるとき、上図のように、掌を客側に向けて開き、何もしていないことがわかる様にします。

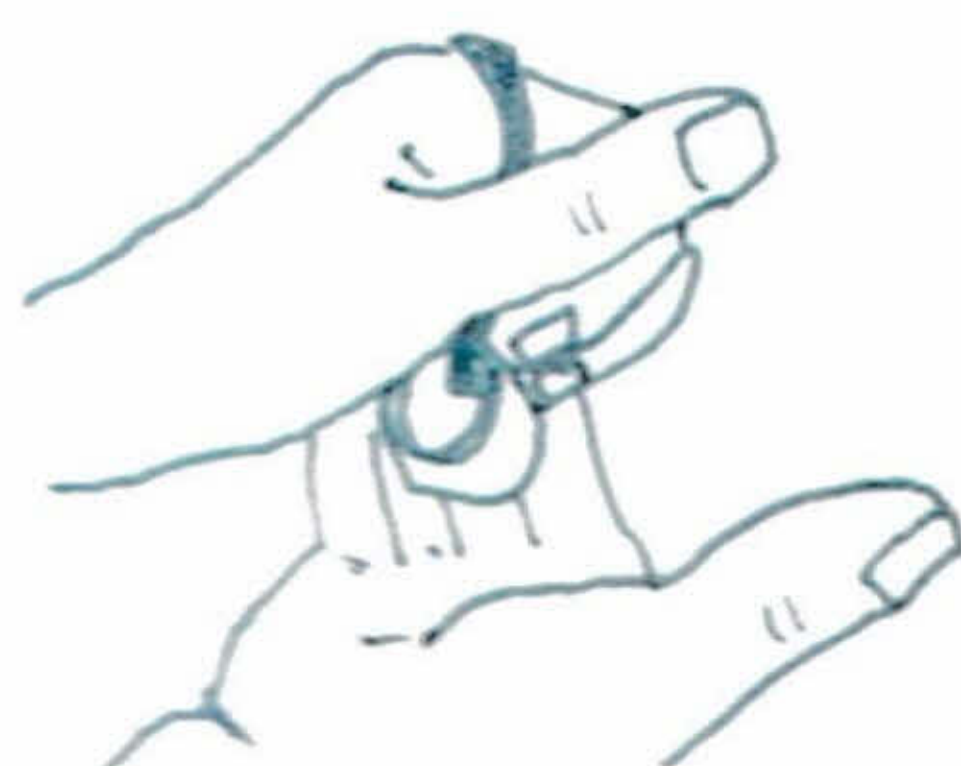


図13

そして、小指側の紐を左手に掛ける動作で、左手を緩めて、右手の中に指輪を落としてしまいます(図13)。右フィンガーパームの位置に指輪を乗せたまま、紐を左拳に掛け、右手は指輪が抜けるまで手前に引いてきます(図14)。

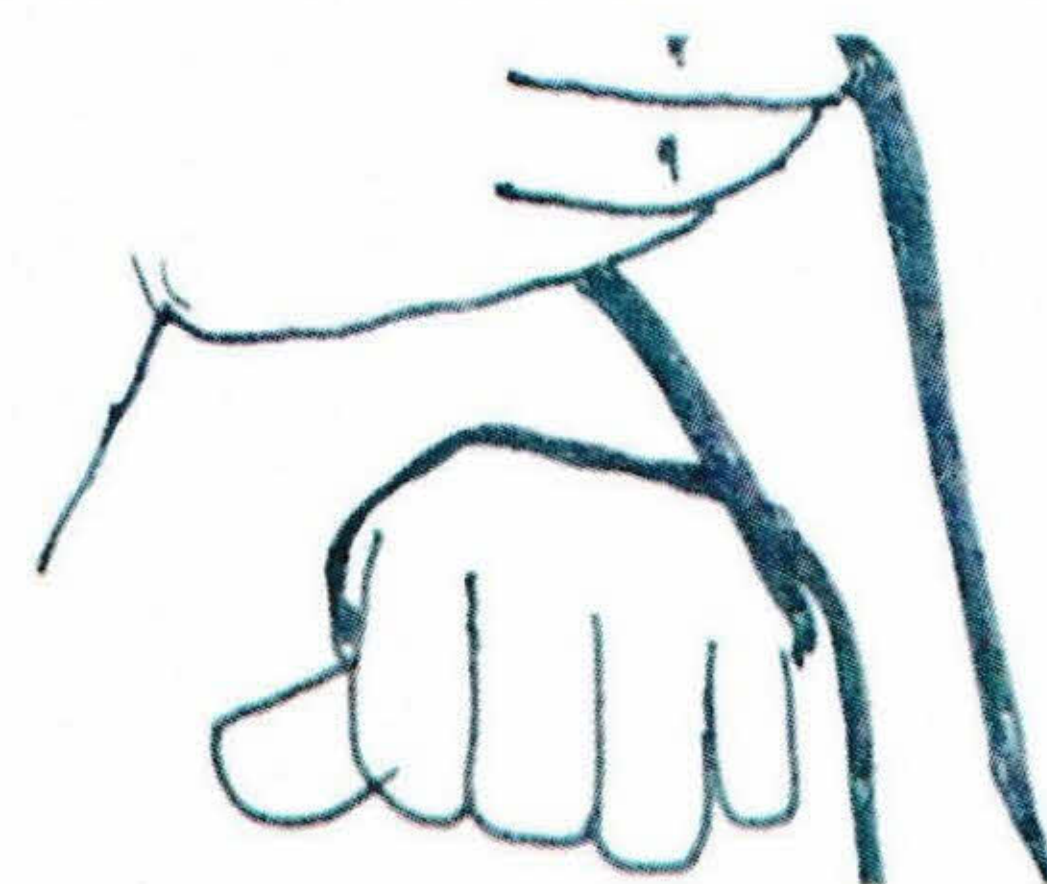


図14

⑱「紐がクロスしているところを押さえてください」(図15)指輪をパームした右手を、右ポケットに入れて、指輪はポケットに残し、代わりに指先にコインを持って出してきました。コインで左拳の上でおまじないを掛けます。コインはポケットに戻します。ゆっくり左手を空けて、紐が押さえられた状態で指輪が消えていることを見せます。そして、視線をテーブルの箱に移して、無言で指さします。

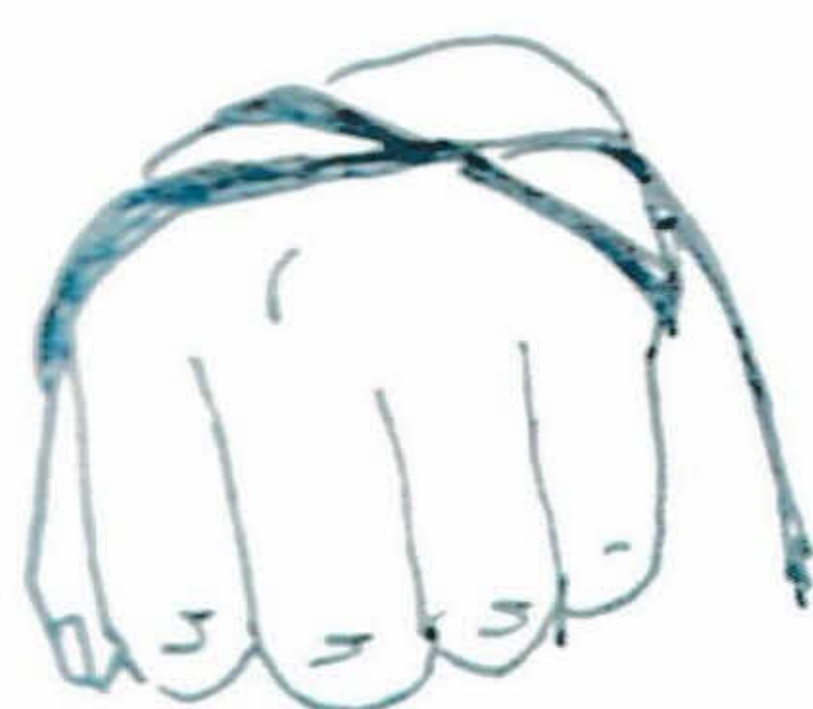


図15

お客さんは自然と箱を開けて驚いてくれます。

《第5現象の準備》

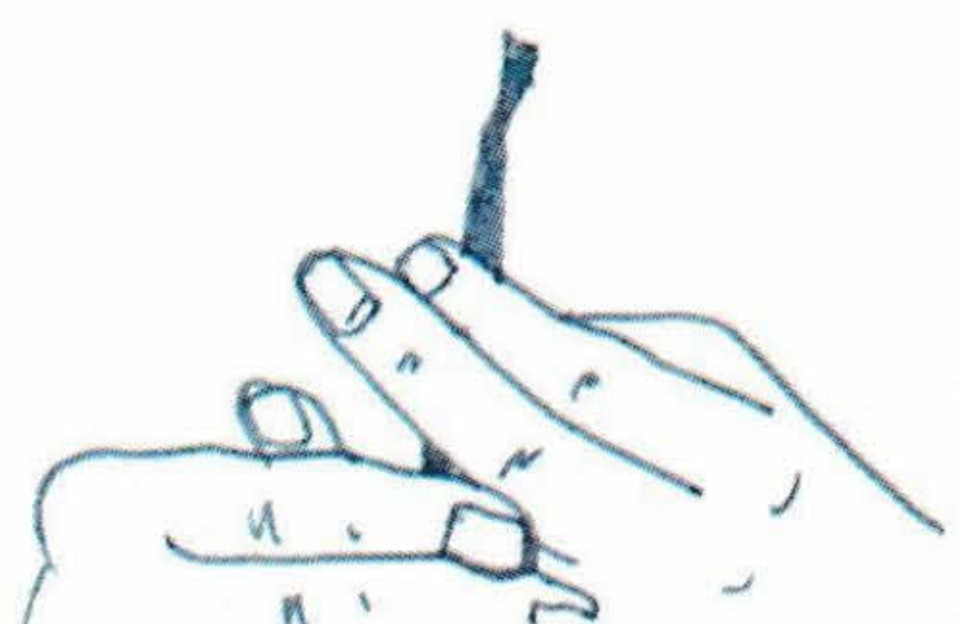


図16

①⑨お客さんが指輪の箱を開けて、中を見て驚いている間に次の作業を済ませます。まず、左手に掛かっている紐の端を右手でつかみ、拳から外し、右手で持っている紐を、図16の様に左指先から 3cm ほど立って飛び出すように渡します。そして、右手で左薬指に初めから、はめていた指輪をつかんで抜きつつ、指輪を指先で持った右手で紐を下の方にしごきます。(これは、紐を持った時に、よじれを直すよくある動作。)

②⑩指先に指輪を持った右手を左手の上に移動し、右手の陰で、飛び出した紐の先端に、指輪を通して左手に落とします(図17)。

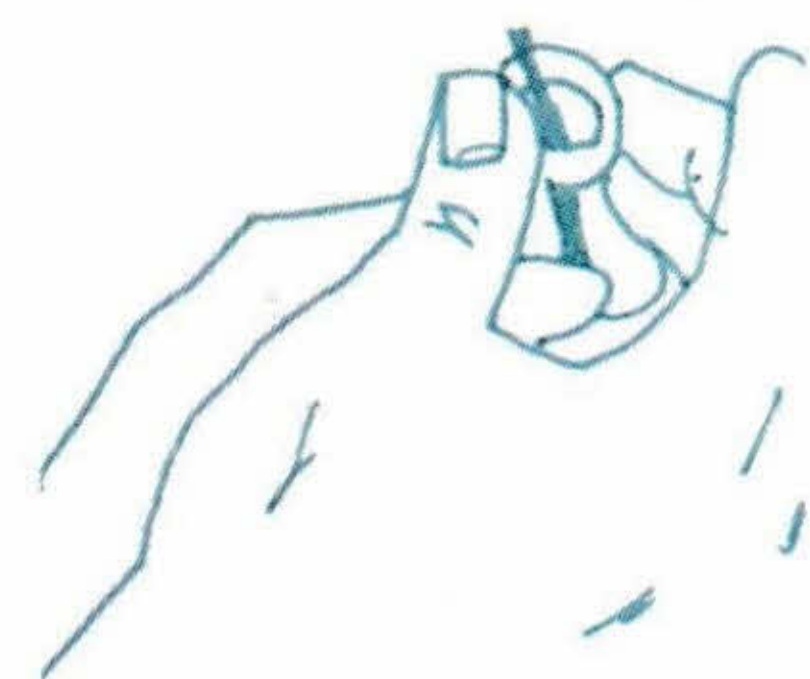


図17

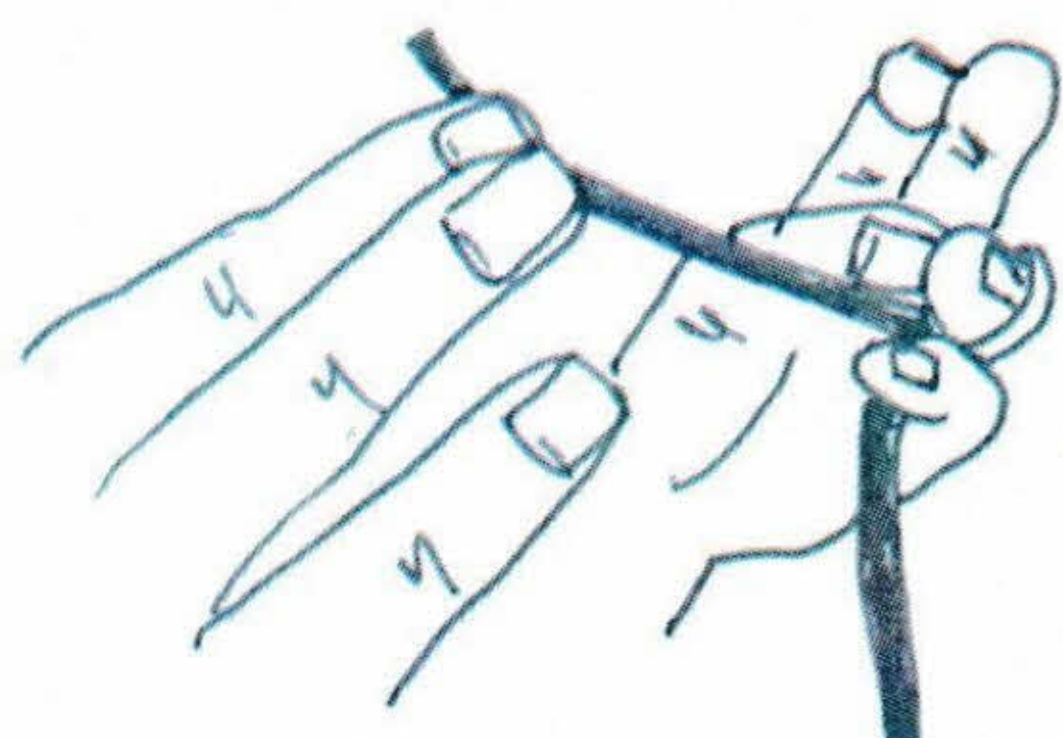


図18

②⑩+①右手はすぐに紐の先端をつまんで、紐を引っ張りますが、この動作の陰で、左親指を使って、指輪を薬指にはめてしまいます(図18)。紐は半分の長さ辺りまで右に引きます。

《第5現象》石田天海の方法(“Ring on the Rope”, Tokyo Trickery, p.61.)

②⑩+②「最後は、少し難しい方法にチャレンジします」魔法の指輪を紐に通すのですが、左薬指の指輪に紐が通っているので、普通には出来ないのです、次のようにします。左手に持っている紐の親指側から出ている方の端を、右手で持って左指先に手渡します。右手で魔法の指輪を左指先に持っている紐の端に通し、指輪を左手に握ります。紐の端を右手でつまんでピンと張るまで右に引っ張り出します。なお以上の動作は、左薬指の指輪に紐が通っているため、左手を開くと紐が不自然な所に引っかかっていることが露見するため、ずっと左手を握っている必要があります。この時点で、紐の端は左拳の小指側と親指側から垂れた状態です。

②⑩+③右手で左拳の小指側から垂れている紐を持って、左方に引っ張り、左側のお客さん(あるいはお客さんが一人なら、その人の右手)で紐の端をつかんで貰います。

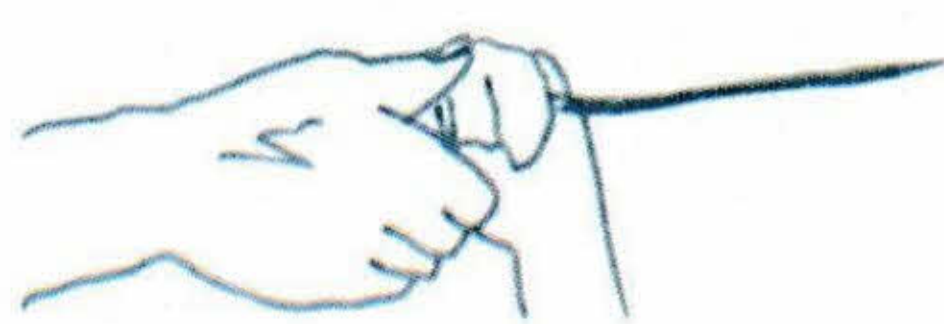


図19

②⑩+④続けて、右手を左拳下に持ってきて、右手の陰で左手を緩め、右手の中に指輪を落とし(図19)、そのまま右手は親指側から出ている紐の端まで滑らせ(図20)。

②⑩+⑤現時点で両端をお客さんに捕まれているので、指輪の逃げ道がないように見えます。「今、こちらの端は貴方が責任もって握っています。いいと言うまで離さないでくださいね」

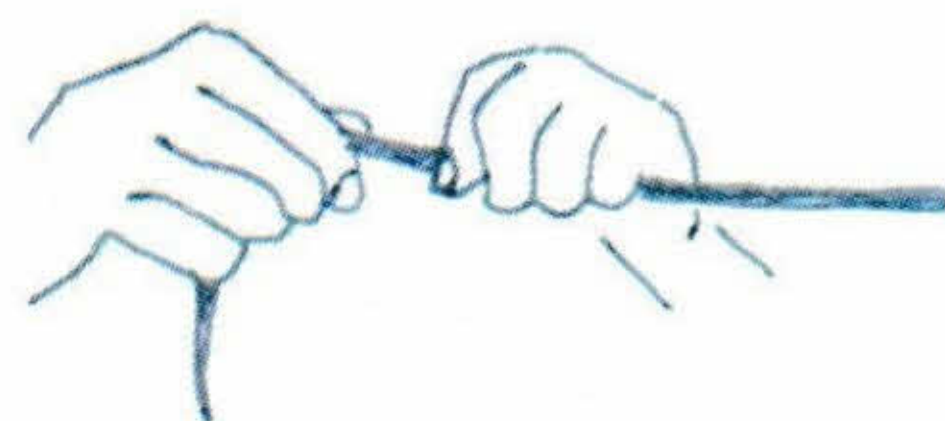


図20

こう言いながら、右手でパームしている指輪に親指を差し込みます。そして、上記の「こちらの端」という台詞に合わせて、右手を左拳に近付け、左の端を伸ばした人差指で指し示します(図21)。



図21

しかし、その動作の裏で、親指を伸ばして指輪を左拳に渡してしまいます。(上の図21は上方から見たところ。)続けて、右手で右の端を指さして「こちらの端も御願ひします」と言います。右手で左拳におまじないを掛けてから、右掌を上に向けて左拳の下に構え、左手の指輪を右手に落とします。これで両端をお客に捕まれた不可能な状況で、指輪が離脱したことになります。

《第6現象》

⑩+⑥すかさず「手はまだ離さないでください！」と言います。客は現象が終わったと思い、離してしまうのですが、ここで持たれたままの方が不思議さが強まります。「更に今度は、指輪を入れようと思います。」右手の指輪を左手に握りおまじないを掛けた後、右手を拳の下に構え、さっき同様右手に指輪を落とします。「まだ入ってませんね。」もう一度同じことを繰り返します。「おかしいなあ…」そう言いつつ、それとなく、左手で自分の鼻の頭を掻こうとします。ここで、左手を開いて上に移動すると、はめていた指輪に紐が引っ張られて、通っていることに気付かれます。お客は「離すな」と言われていますので、まだそのままになっています。

全員が、この不可解な状況に気づいたら、左薬指から指輪を抜いて、両端を客に捕まれ引っ張られている紐の中央に指輪を残して少し離れます。

お客は、大抵、置き去りにされた指輪や紐に仕掛けがないか確かめ始めます。

[コメント](麦谷)

金沢の山崎真孝さんから原稿をいただきました。なかなかのスライハンドでやりがいのある手品に圧倒されました。私(麦谷)自身は、リング・オン・ウォンドは演じますが、紐やりボンは演じていませんでしたので刺激になりました。山崎さんにはこれからも原稿をお願いしようと思っています。

山崎真孝さんのプロフィール

1978年(中学生時代)にマジックを始める。メリケン・ハットの名手プリンス・東陽氏に師事。次いで、大阪の根本毅氏に師事。近畿大学医学部の奇術部創設。

1991年奇術愛好会『金澤 CULL』創設。1998年医院開業。

2002年、金沢市のストリートパフォーマンスプロジェクト“Mapth”に参加。

2011年、スナック『るいママ』にて毎週金曜日、バーマジック開始。

2013年、マジックバー“Magi-CULL Sunday”開店。

IBM 国際奇術連盟会員、SAM アメリカ奇術家協会会員。新聞、ラジオ、テレビなどで広く紹介され、出演する。専門誌「PALM 掌」「TOY BOX」「スベンガリ」等に多数のオリジナル作品発表。

作品集“POP MAGIC”1,2 発売。オリジナル作品“Link Board”発売。

“Personal Safe”の研究

麦谷眞里

(はじめに)“Personal Safe”は、Daniel Garcia のコイン・マジックです。2005年に、Paul Harris が企画した“the daniel garcia project”という6枚組の DVD の No.1 で発表・解説されました(写真120)。普通に見ているとただのコイン・アクロスで、他のマジシャンでも似たようなことをやっていて、どこがダニエル・ガルシアのオリジナルなのかよくわかりません。

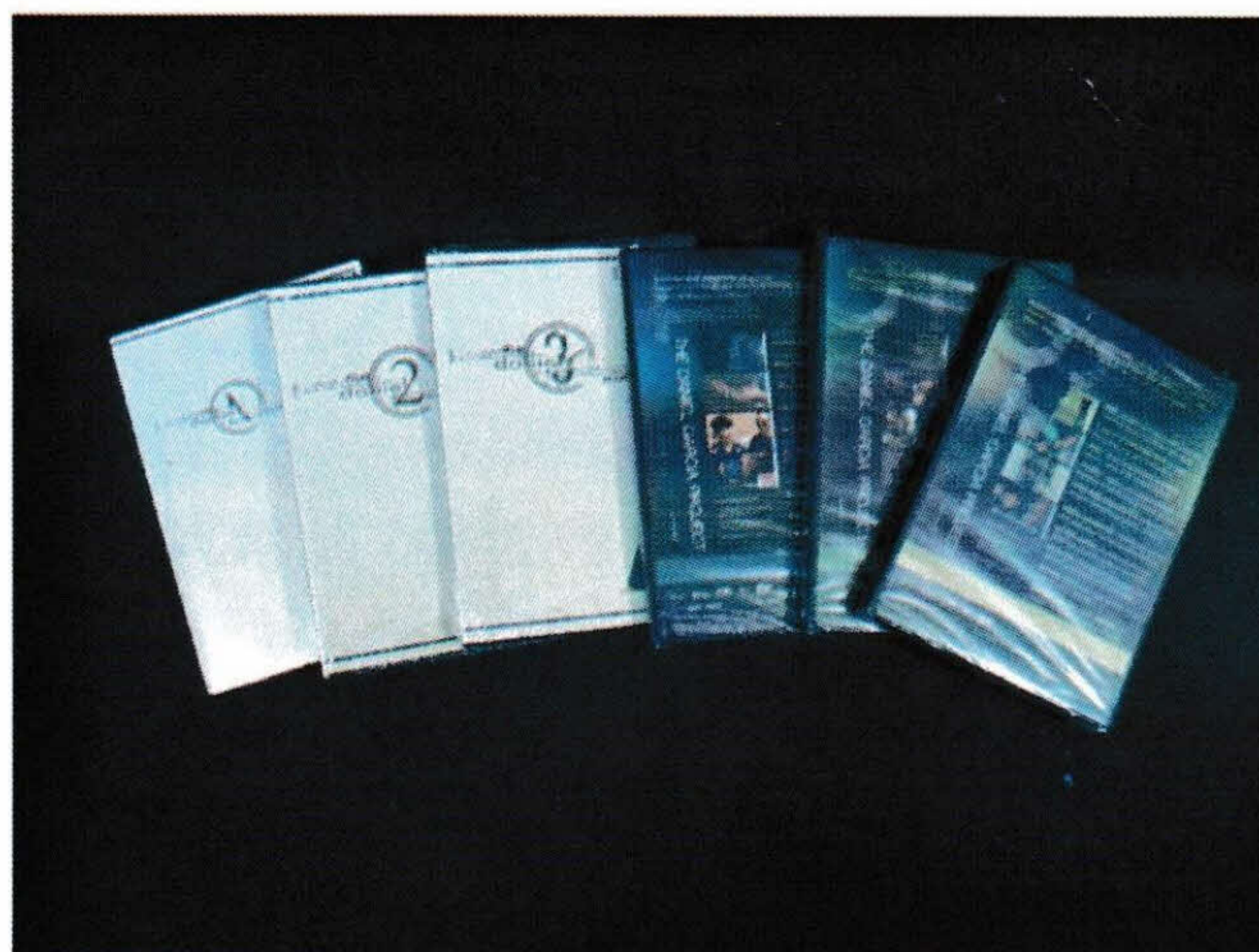


写真120

最後の1枚の処理は確かにユニークと言えばユニークですが、DVD の映像を見る限り、クライマックスにこんなことまでしなくても、と思っていました。ところが、2009年に出されたダニエル・ガルシアのノート“limited”にも、“YOUR PERSONAL SAFE”と題して、まったく同じ手品が収載されているのです(写真121)。

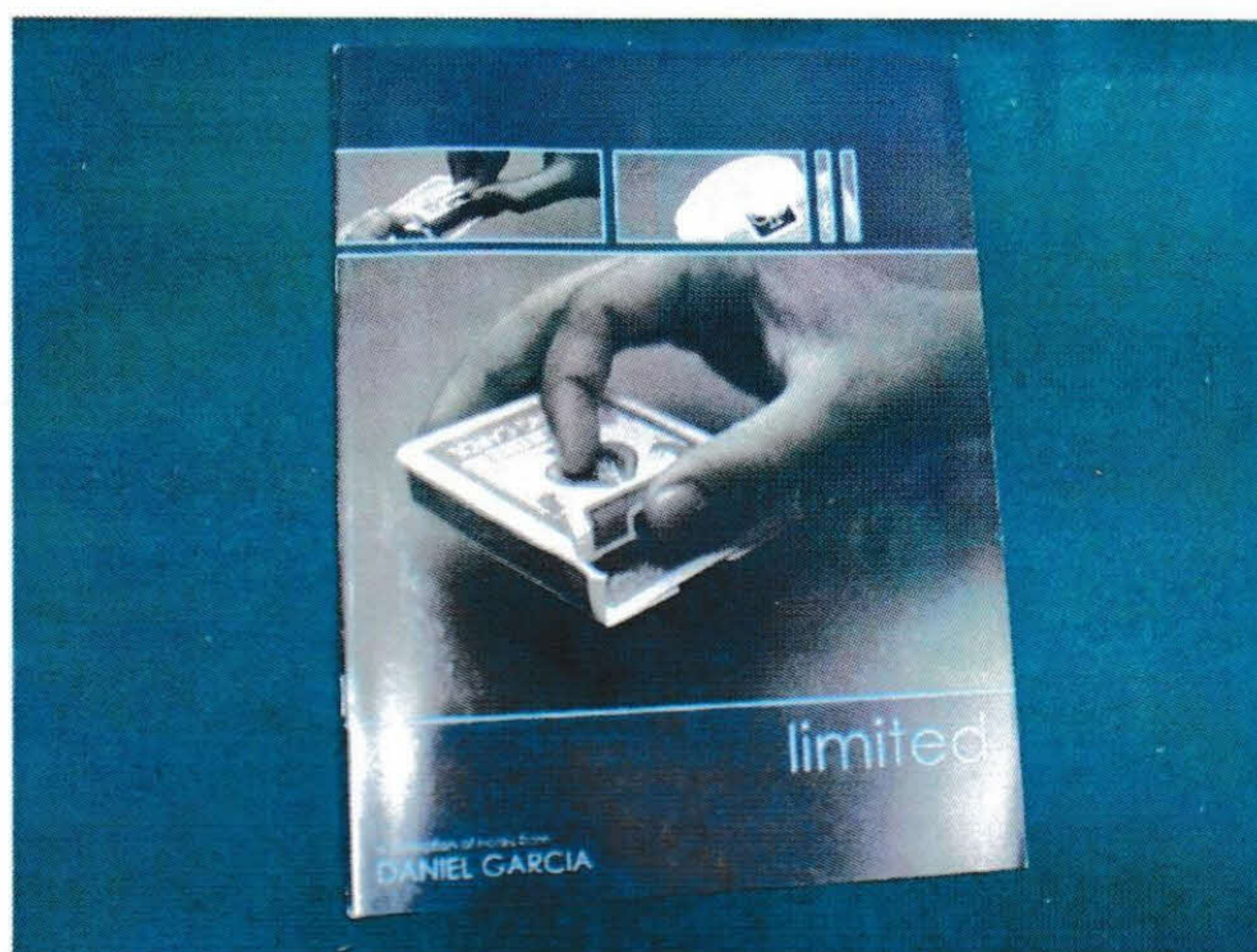


写真121

手練れのダニエル・ガルシアがそこまで拘るのなら、一度、取り上げてみようと思った次第です。

[現象]4枚のコインが、マジシャンの手から1枚ずつ、客の手に飛行します。最後の1枚は客の指輪に変化してしまいます。(この現象の記述は正確ではありませんので、以下の解説を読むと理解できます)。

[必要なもの]

- ①4枚のハーフ・ダラー(写真ではフランクリンを使っています)
- ②1枚のハーフ・ダラー・シェル(①のコインと同じもの)

[やり方]

- ①女性の客を選びます。指輪を外してもらいますが、できるだけ宝石の付いているものを避けます。かまぼこ型のやや幅広のものが適しています。
- ②マジシャンは客の左横に立ち客に左手を掌が上になるようにして出してもらい、掌に指輪を載せます。指のほうではなくて掌の上に置きます。
- ③コイン入れから4枚のハーフ・ダラーを出してマジシャンの左手の指先の上に重ねて示します。シェルは、一番下のコインに被さっています(写真122)。



写真122

- ④一番上のコインを右手の指先で取り上げて、これで、客の掌にある指輪をタップして音を出し、「この指輪は、もし、コインが飛行したときに音がするように置いておくのです」と言います。そして、この右手の指先のコインを元通り左手に戻す動作で、実際は、このコインをクラシック・パームして、右手の指先で、一番下のコインに被さっているシェルを持ち上げて重なるようにして左手に4枚のコインがあるように見せます。
- ⑤客に左手にある4枚のコインを見せつつ、右手は甲を上にしてやや捻げて客の左手の指輪の上方に翳します。左手を握って、シェルを一番下のコインに被せ、拳を振って音をさせます。同時に右手にクラシック・パームしていたコインを指輪の上に落とします。音がします。1枚目のコインが飛行しました。左手を開いて、コインが3枚しかないことを見せます。
- ⑥客の手に飛行したばかりのコインを右手で取り上げて、指輪をタップします。「飛行すると音がし

ましたよね？」こう言いながら、このコインを客の手の中に置いて、空いた右手で左手の3枚のコインの一番上（指先側）のコインを取り上げます。「2枚目のコインです」と言いながら、このコインを左手に戻すと見せて、右手にクラシック・パームし、右手の指先で、一番下のコインに被さっているシェルを持ち上げて外して重ねます（写真123）。



写真123

- ⑦左手に3枚のコインがあることを示した後、左手を握り、右手は客の手の上に翳します。左手を振って音をさせ、シェルを被せます。同時に右手からクラシック・パームしていたコインを客の左手に落とします。2枚目のコインが飛行しました。
- ⑧左手を開きます。コインは2枚になっています。右手で、上側の1枚を取り上げて、「これが3枚目です」と言って、このコインを左手に戻す動作で、右手にクラシック・パームして、指先で、左手のシェルを持ち上げて2枚のコインに見せます。左手はシェルとコインとを親指と人差指・中指とで持ちます。手前がシェルです（写真124）。右手は客の掌の上に翳します。



写真124

- ⑨このまま、左手を手前に手の甲が上になるように回転させながら、シェルとコインとを重ねます。あたかも、2枚のコインがゆっくりと一枚になったように見えます（写真125）。右手のクラシック・パームしているコインを客の左手に落とします。3枚目のコインが飛行しました。



写真125

- ⑩左手にはシェルの被さったコインが1枚だけ残っています。右手で、客の手の上にある3枚のコインを取り上げて右手の指先に重ねます。そして、この指先側の3枚の上に、シェル付きの左手のコインを載せます(写真126)。



写真126

- ⑪左手で、一番上のシェルだけを取り上げて、テーブルの上に置きます。次に、左手で右手のコインを3枚だけ重ね、もう一枚は3枚の下に隠れるようにして示します(写真127)。写真128はこれの下から見たところです。3枚のコインは、右手の親指と人差指だけで保持されていることに注意してください。右手の中指と薬指は自由です。
- ⑫客の左掌には客の指輪が残っています。右手の3枚のコイン(実際は4枚)をそのままの形で客の掌に置こうとします。このとき、コインの下で、右手の中指を使って、指輪の向こう側(指先側)を押して、手前側を持ち上げ(写真129)、浮いたところを右手の薬指で挟んで、右手の中指と薬指とで挟んで客の掌から取り上げます(写真130)。同時にコインを客の掌に落とします。ただちに客の左手を握らせます。「しっかり握ってください。これが、コインと指輪の入った貴女の金庫です」と言います。
- ⑬左手でテーブル上のシェルを取り上げ、客にコインのほうを向けて目の高さで見せます。シェル

は左手の親指と人差指とで持っています。この間に右手は手の中で、指輪を右人差指に嵌めてしまいます。女性用の指輪ですから、通常は、せいぜいマジシャン(男性であれば)の指の第2関節以上は入らないと思われます。



写真127



写真128



写真129

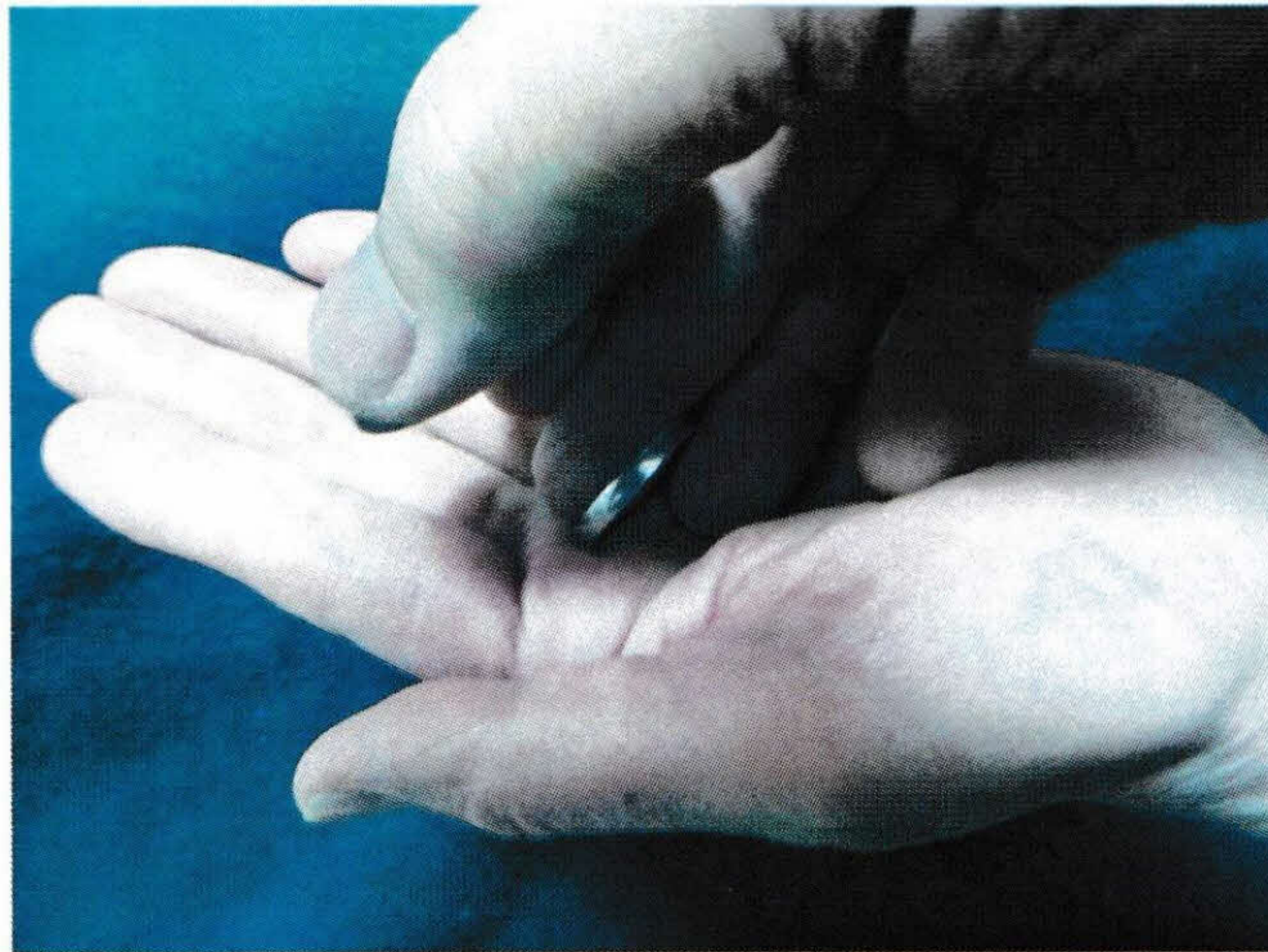


写真130

- ⑭マジシャンは、身体の向きを約90度右へ回転させて変え、右側にいる客の左側面を見るような形になります。コインを握った客の左手はマジシャンの前にあります。この状態で、左手のシェルを客の目の高さに上げて示します。客は、身体をやや左に向けてシェルを見ることになります。この状態で、マジシャンの右手の人差指(客の指輪が嵌まっている)を左手のシェルに向けて、あたかもシェルを貫くように勢いよく伸ばします。同時に、左手は、左親指と左中指を使ってシェルを寝かせ、人差指と中指とでシェルを隠します(写真131)。客は、自分が握っている自分の指輪がマジシャンの右人差指に突然現れたわけですから、驚くと同時に、まるでコインが客の指輪に変化したように見えます。

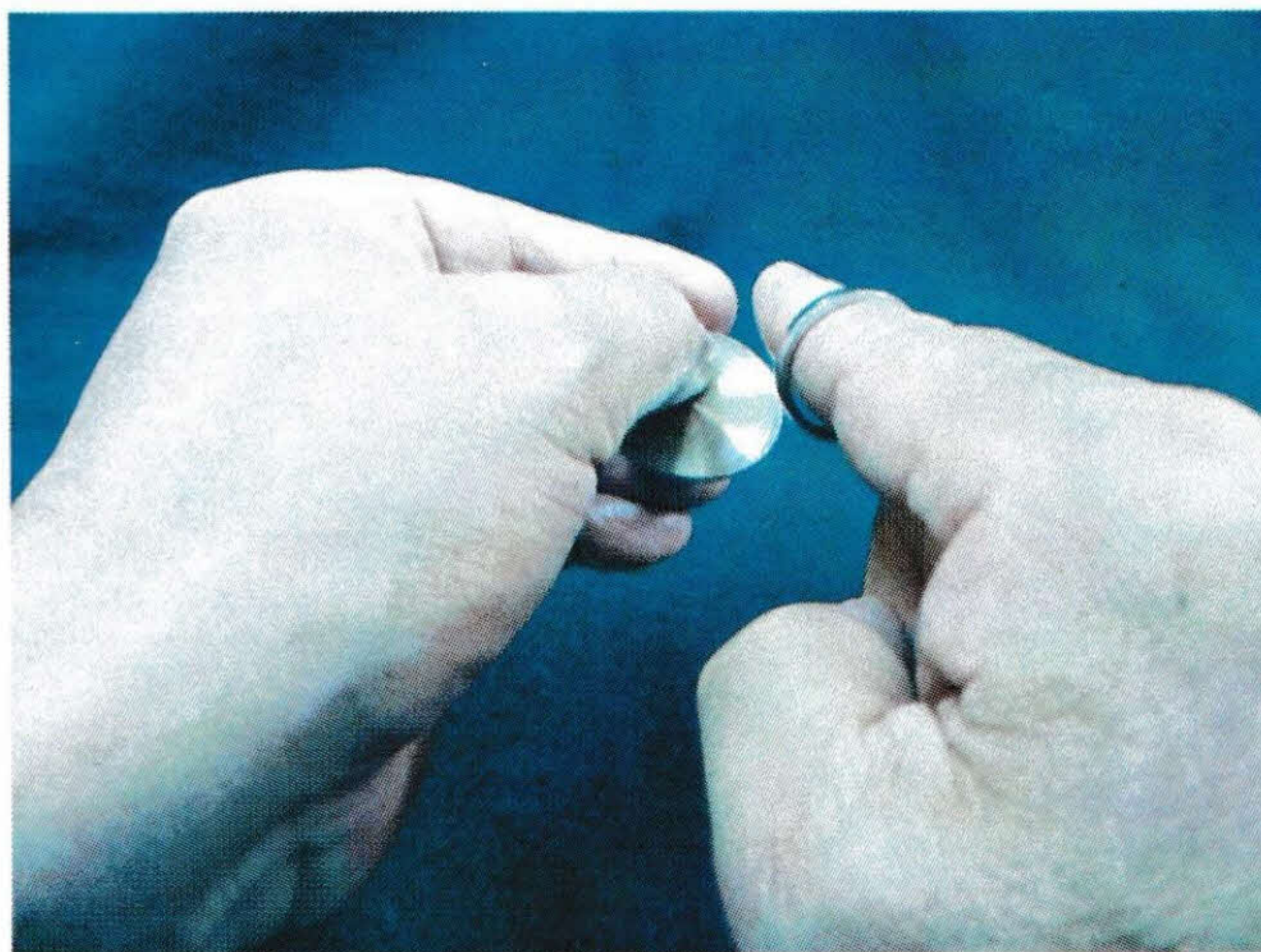


写真131

- ⑮シェルを隠したまま、左手を右手に近づけて、左人差指と左親指とで右人差指の指輪を抜こうとしますが、この動作の陰で、シェルを右手に落とし、ただちにフィンガー・パームしてしまいます(写真132)。
- ⑯客は、突然、マジシャンの人差指に自分の指輪が出現したので驚いています。左手で指輪を抜いたら、それを客に返しなが、客の左手を開いてもらいます。コインは4枚になっています。
- ⑰マジシャンは指輪を客の左手に置いて、「確かに貴女の指輪ですね？」と言いながら、客に指

輪の点検を促しつつ、空いた左手で、客の掌から4枚のコインを取り上げて、右手に渡し、シェルと一緒にしてコイン入れにしまいます。

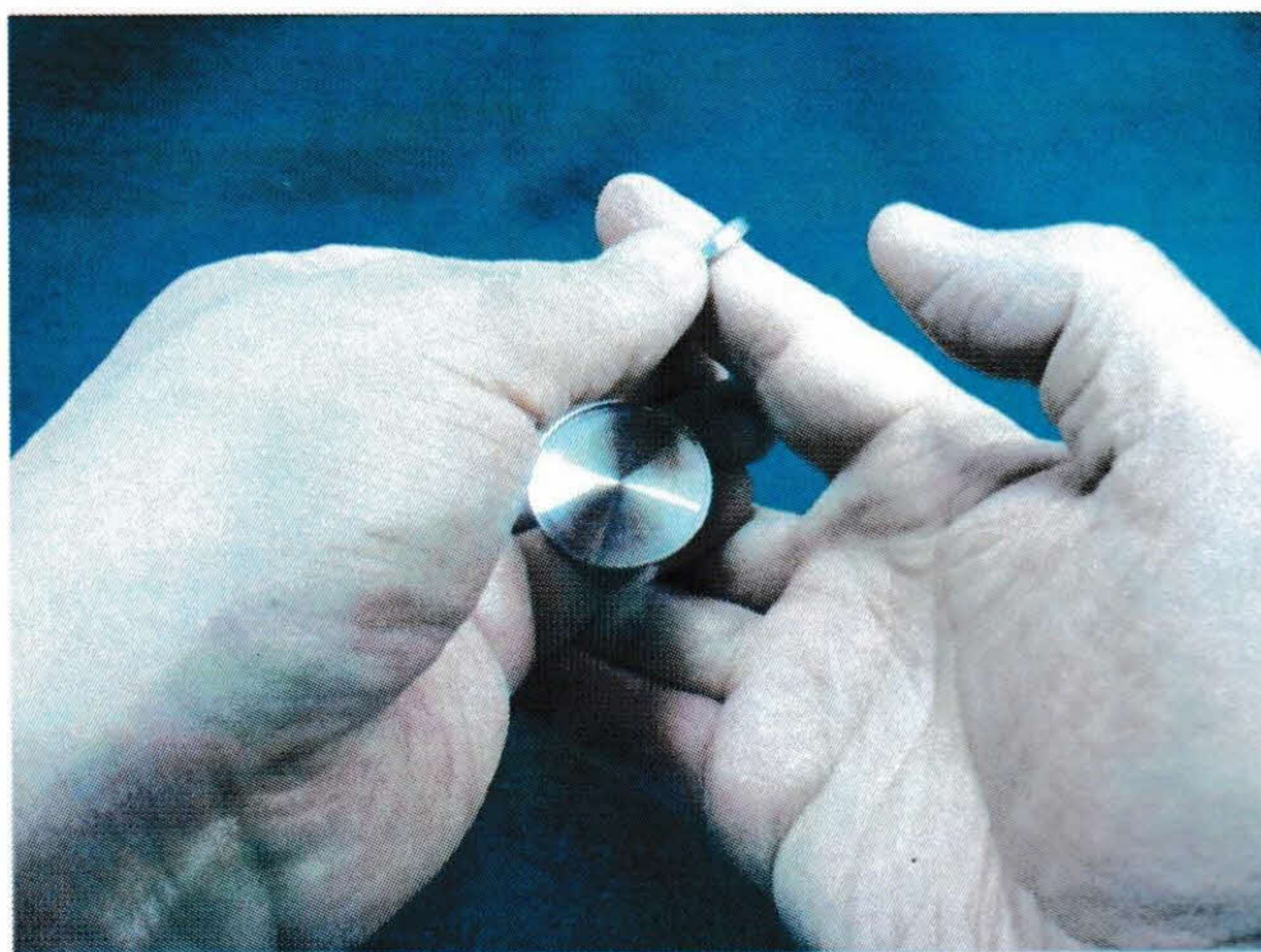


写真132

[コメント]

クライマックスを除けば、コイン・アクロスとしては、オーソドックスで標準的でない手順です。最後の1枚演出が大げさでイヤな人は、指輪を右人差指に嵌めないで、右手にフィンガー・パームしたままで、右手の指先にシェルを持って、これを左手に渡す仕草でサム・パームし、フィンガー・パームしていた指輪を左手に渡せば、最後のコインが指輪に変化したように見えます。タイトルの「あなたの専用の金庫」は、解説の途中の台詞でも述べてありますが、指輪とコインを握った客の拳のことです。

閑話休題

今号には、金沢の山崎真孝さんの作品を掲載しました。“masquerade”は、これまでも、高木重朗さんや松田道弘さん、片倉雄一君などの作品を収録して来ましたが、基本的には広く門戸を開いています。最近では、消えゆく奇術用具を扱うことが多くなってきましたが、本来はクローズ・アップ・マジック専門誌です。今号は、珍しくクローズ・アップ・マジックが多いな、と思われた方がいらっしゃるかと思います。これが本来の姿です。消えゆくマジックと言えば、最近シガレット・マジックを観なくなりました。私もタバコは一切吸いませんが、マジックとして衰退して行くのは残念です。そこで、そのうち、“masquerade”でタバコの手品を集大成しておこうと思っています。いつになるかわかりませんが、そのとき、「なんだ、タバコの手品か」とがっかりしないでください。

これは、masquerade part 8 の No.4 です。

e-mail のアドレス：masqpart4@aol.com

郵便の送付先：〒145-0061 東京都大田区石川町2-33-1-904 マスカレイド

(2020年5月)